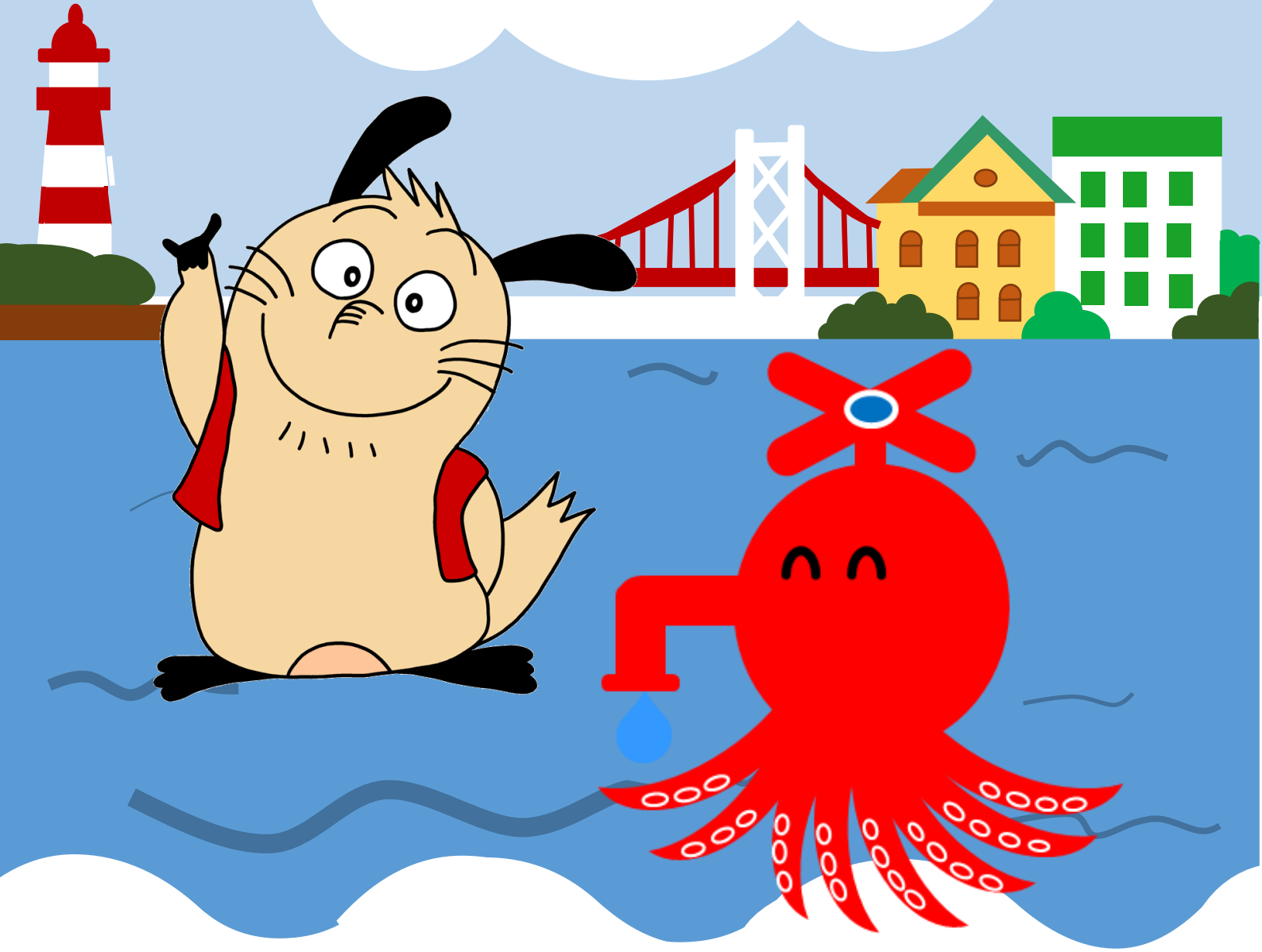
令和7年度

明石市水道事業会計
よくわかる決算書



明石市上下水道局

（凡例）

1 各表のうち、数値及び割合については、それぞれの数値毎に表示単位未満を四捨五入しています。このため、合計と内訳の計が一致しない場合があります。

2 文中及び各表中に用いる比率及び平均値は、原則として表示単位未満を四捨五入しています。

3 各グラフ中の数字については、表示単位未満を四捨五入しています。

4 各表中の符号の用法は、次のとおりです。

▲ ‥‥‥‥‥‥‥‥ 減少、低下又はマイナスを表します。

0、0.0 又は 0.00‥‥ 0又は該当数値はありますが表示単位未満のものを表します。

目次

1 決算書とは？ ..... - 1 -
まずは、財務三表それぞれの役割について説明するよ。 ..... - 2 -
水道事業の経営とは？ ..... - 4 -
2 経営成績はどうだったの？ ..... - 5 -
1 水道の給水件数 ..... - 5 -
2 水道水の使用量 ..... - 5 -
3 令和7年度決算の特徴 ..... - 5 -
次に、損益計算書で入ってきたお金（収入）を見てみよう。 ..... - 7 -
続いて、損益計算書で使ったお金（支出）を見てみよう。 ..... - 8 -
損益計算書の「収入」から「支出」を引いてみよう。 ..... - 10 -
「資本的支出」（＝損益計算書には載っていない支出）を見てみよう。 ..... - 11 -
「資本的収入」（＝損益計算書には載っていない収入）を見てみよう。 ..... - 12 -
「資本的収入」から「資本的支出」を引いてみよう。 ..... - 13 -
減価償却費のイメージを例示図で見てみよう。 ..... - 14 -
まとめ ..... - 16 -
水道事業会計の仕組み ..... - 17 -
3 「補てん財源」の動きを見てみよう ..... - 19 -
4 「借入金残高」の動きを見てみよう ..... - 20 -
5 水道料金の仕組みと現状を見てみよう ..... - 21 -
6 水道が置かれている現況を見てみよう ..... - 23 -
水道施設整備費（建設改良費）と給水人口（水道使用者数）の推移 ..... - 23 -
水道管の更新に必要となる費用（概算） ..... - 24 -
今後の給水人口の推計 ..... - 25 -
水道料金収入の推移 ..... - 26 -
水道使用者の1人1日平均使用水量の推移 ..... - 27 -
7 財務三表の解説 ..... - 28 -
【図解】損益計算書（令和7年度決算書P5～6関連） ..... - 28 -
【図解】貸借対照表（令和7年度決算書P9～11関連） ..... - 29 -
【図解】キャッシュ・フロー計算書（令和7年度決算書P12関連） ..... - 30 -
8 経営指標の解説及び比較 ..... - 31 -
1 各種指標の意味及び最新の実績（令和7年度決算数値）（令和7年度決算書P17～18） ..... - 31 -
2 経営比較分析表（総務省作成・公表資料の引用） ..... - 32 -
3 経営比較分析表をまとめて見てみよう。 ..... - 33 -
よくわかる決算書 用語解説 ..... - 34 -

１ 決算書とは？

明石市水道事業では公営企業会計を採用しています。

公営企業会計では民間企業のように複式簿記を使って記帳を行います。

その記帳の内容をとりまとめたものが「決算書」になります。

決算書は、４月１日から翌年の３月３１日までの１年間の経営成績と財政状態について、損益計算書（ＰＬ）、貸借対照表（ＢＳ）、キャッシュ・フロー計算書（ＣＦ）（**財務三表**と呼びます。）などの決算書類で表しています。

ただ、この書類は初めて見る人には少し難しい内容です。
そのため、水道使用者の皆さんに決算書に書かれていることを分かりやすくお伝えし、明石市の水道事業がどのような経営状況なのかを少しでも知っていただけるよう令和７年度決算書の概要版を、この度作成いたしました。



決算書を見てみたけど、見慣れない言葉が多くて、よく分からなかったよ～？

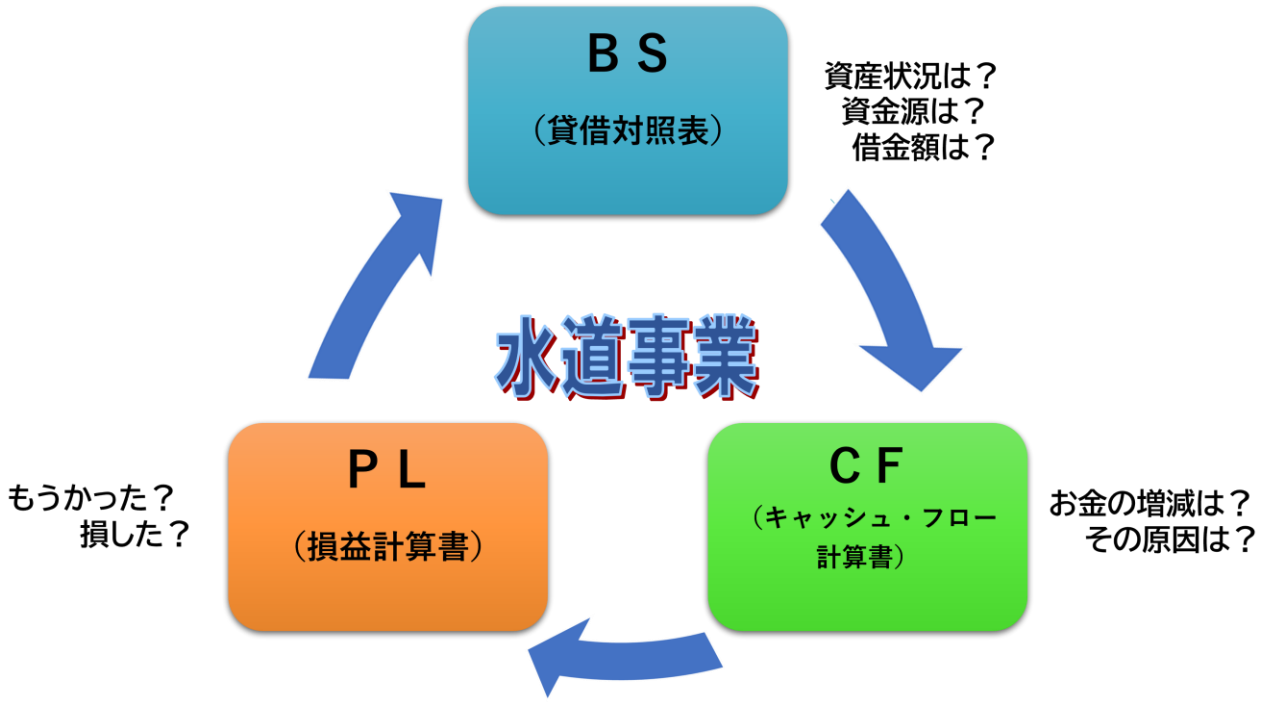
「時のまち明石」マスコットキャラクター 時のわらし

ボクが決算書を分かりやすく説明するよ。



明水(めいすい)くん
明石市水道事業のイメージキャラクター

まずは、財務三表それぞれの役割について説明するよ。



損益計算書、貸借対照表、キャッシュ・フロー計算書を合わせて、財務三表と呼ぶんだ。
それぞれ役割があって、さまざまな角度から水道事業の経営状況を把握できるようになっているよ。





経営状況っていうと、やっぱり「もうかったか？」みたいなことなの？

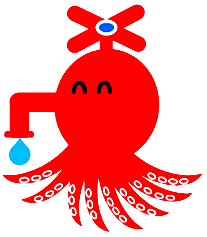
「もうかったか？」も大事な情報だね。
他にも、「浄水場などの資産や、返さなきゃいけないお金である負債（借金など）がどれくらいあるか？」といった情報や、
「現金を増やすことができたか？」といった情報も
経営状況を見る上で大切なんだ。



1　決算書とは？



「もうかった」と「現金が増えた」は違う情報なの？



とってもいい質問だね。実はその２つは違う情報なんだ。
この「よくわかる決算書」で、その違いを詳しく説明していくよ。



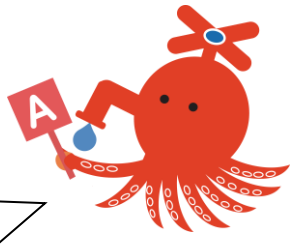
ここでは、ひとまず財務三表ぞれぞれの役割を知ろう。
「損益計算書」が「もうかったか？」、
「貸借対照表」が「資産、負債、資本の状況がどうなったか？」、
「キャッシュ・フロー計算書」が「現金が増えたか？」
を表す書類なんだ。

水道事業における「もうけ（利益）」は、全て水道施設の更新や借入金（借金）の返済に使われます。
健全な経営を続けていくためには、適切に利益を確保していく必要があります。

水道事業の経営とは？



水道事業は税金で行っているの？



Ｎｏ。　原則的に、税金は使っていないんだよ。
井戸や川の水を飲み水にするためにきれいにしたり、皆さんのじゃ口まで飲み水を届ける水道管も必要だったり、水道料金を集めたりと、水道事業にはたくさんのお金がかかるんだよ。そのほぼ全てを水道使用者の皆さんからいただく水道料金でまかなっているんだよ。

明石市の水道事業は、ほぼ全ての事業を、税金ではなく、水道使用者の皆さんからいただいた水道料金でまかなって（経営して）います。この仕組みを**「独立採算制（どくりつさいさんせい）」**と言います。

また水道事業の会計は、一般的な行政経費を扱う「一般会計」から独立し、「水道事業会計」という特別会計を設けて計算、経理を行っています。

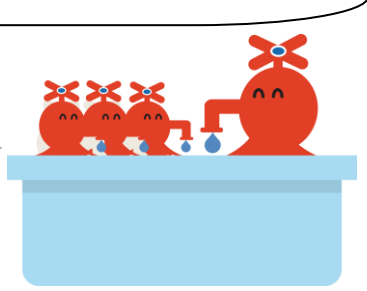
水道事業会計は、地方公営企業法に基づき「収益的収支（しゅうえきてきしゅうし）」と「資本的収支（しほんてきしゅうし）」に分けて計算することになっています。
「収益的収支」とは、水道水を作ったり、水道管を通じて水道水をお届けしたりするなど事業を運営するための収入と支出のことです。
「資本的収支」とは、浄水場や水道管の整備や更新などのための収入と支出のことです。

「収益的収支」で得た利益を資金として、水道施設の整備を「資本的収支」を通して行っていくというのが、水道事業経営の基本的（本来的）な仕組みとなっています。（参考Ｐ１７～１８）



水が止まれば、トイレやお風呂も使えなくなっちゃう…。
僕たちが支払っている水道料金が水道インフラを維持し、「水を使える毎日」を支えているんだね！

そのとおり！



２ 経営成績はどうだったの？

まずは、水道事業の概況を見てみよう。

１ 水道の給水件数

項目	令和７年度	令和６年度	前年度からの増減
給水戸数（戸）	149,807	148,635	＋1,172
給水人口（人）	306,522	306,348	＋174

「給水戸数」は、水道の給水契約の対象となっている戸数のことで、前年度から 1,172 戸増えたよ。
「給水人口」は、水道水を使用している人口のことで、前年度から 174 人増えたよ。



２ 水道水の使用量

項目	令和７年度	令和６年度	前年度からの増減
有収水量（㎥）	30,949,702	31,029,398	▲79,696

皆さんが１年間で使った水道水の使用量を合計したものを「有収水量」と言うんだ。
その使用量（有収水量）は、前年度と比べて、79,696 ㎥(立方メートル)のマイナスになったよ。



３ 令和7年度決算の特徴

３－１　水道料金（給水収益）の動向

（税抜）

項目	令和７年度	令和６年度	前年度からの増減
水道料金（給水収益）	50 億 1,709 万円	50 億 1,085 万円	＋624 万円

全体としての水道料金収入は、前年度と比べて、624 万円のプラスになっているよ。



３－２　受水費の増加　（税抜）

項目	令和７年度	令和６年度	前年度からの増減
受水費	17 億 3,944 万円	14 億 1,929 万円	＋3 億 2,015 万円

令和７年度から、新たに阪神水道企業団からの受水を開始したので、受水費の支払額が前年度と比べて、3 億 2,015 万円増えたよ。
受水費については、後で詳しく説明するね。



３－３　委託料の増加　（税抜）

項目	令和７年度	令和６年度	前年度からの増減
委託料	14 億 3,195 万円	12 億 3,440 万円	＋1 億 9,755 万円

水道管修繕後の道路復旧に係る経費や、最近の物価上昇などの影響を受けて、委託料の支払額が、前年度と比べて、1 億 9,755 万円増えたよ。



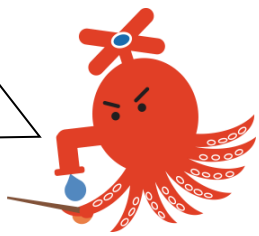
３－４　純損失（赤字）の計上　（税抜）

項目	令和７年度	令和６年度	前年度からの増減
純利益または純損失	▲3 億 7,685 万円	724 万円	▲3 億 8,410 万円

水道事業の１年間において、黒字になった場合を「純利益」と言い、逆に赤字になった場合を「純損失」と言うんだ。令和７年度は、前年度と比べて、3 億 8,410 万円減ったために、純損失（赤字）になってしまったんだよ。
その理由としては、令和７年度は、水道料金の収入が少し増えた一方で、受水費や委託料などの水道事業運営にかかる支払いが大幅に増えたことで、支払いがふくらんでしまい、赤字になってしまったんだ。



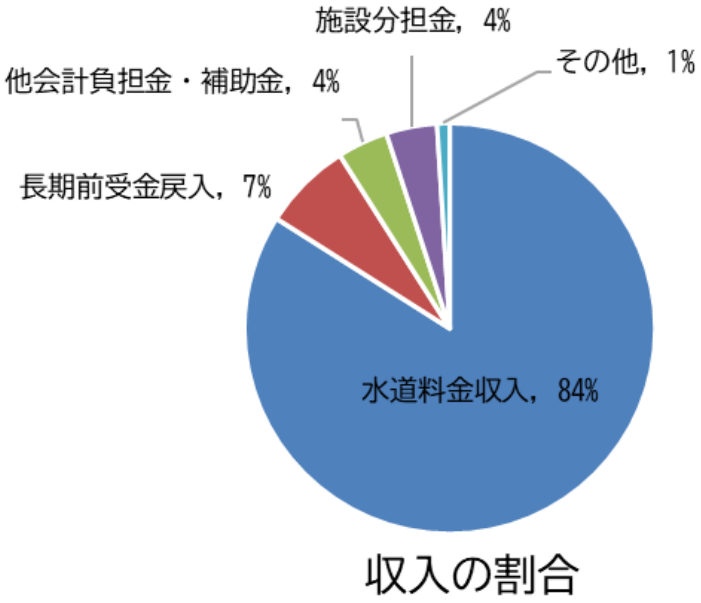
でも、一時的に赤字になったとしても、すぐに水道事業の経営ができなくなるわけではないよ。ただ、もし赤字が何年も続いていくようなら、水道事業を続けていけなくなり、水道使用者の皆さんに水道水をしっかりと届けることができなくなるので、そうならないために、今後少しでも早いうちに、黒字になるような手を打つ必要があるんだよ。



次に、損益計算書で入ってきたお金(収入)を見てみよう。

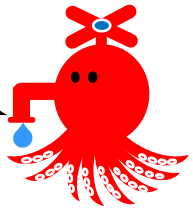
収入（損益計算書）　　（税抜）

内　容	金額（円）
水道料金収入	5,017,088,192
長期前受金戻入	406,323,073
他会計負担金・補助金	246,682,963
施設分担金	235,050,000
その他	59,926,158
合　計	5,965,070,386



収入の割合

上のグラフを見ると分かるけど、水道事業は、ほぼ皆さんからいただく「水道料金収入(給水収益)」で経営していると言えるよ。





あれ？
でも…「収入」には、「水道料金収入」のほかに、「施設分担金」や「他会計負担金・補助金」、「長期前受金戻入」っていうものがあるね…。これは何？

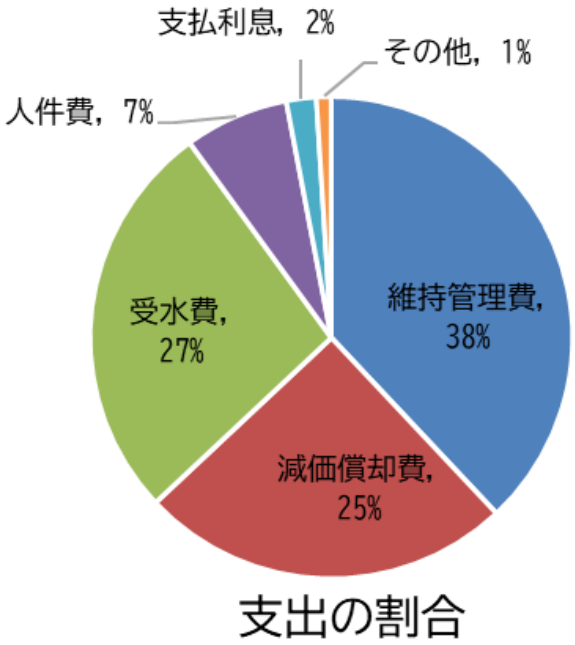
よく気が付いたね。
「施設分担金」は新たな水道使用者に、水道水を新たに給水するために必要となる施設整備費用の一部を負担してもらったものだよ。
次に「他会計負担金・補助金」は、本来、明石市（水道事業は明石市から独立しているよ。）や下水道事業に責任のある業務を水道事業が代わりに行ったときに、その分の費用を埋め合わせてもらったものだよ。
例えば、消火栓を修繕する費用や、下水道使用料を徴収する費用のことなんだ。
「長期前受金戻入」は難しいから、もう少しあとで説明するね。



続いて、損益計算書で使ったお金(支出)を見てみよう。

支出（損益計算書）　　（税抜）

内　容	金額（円）
維持管理費	2,412,653,651
減価償却費	1,603,512,043
受水費	1,739,440,417
人件費	411,555,020
支払利息	131,375,227
その他	43,388,276
合　計	6,341,924,634





「維持管理費」って何なの？
また「受水費」って何なの？



川の水や地下水をきれいにする浄水場や、皆さんの家まで水道水を運ぶためにいったん貯めておく配水場の電気料金や薬品費、業務委託費や、水道施設の修繕費などが「維持管理費」に含まれているよ。また明石市で製造した水道水だけでは足りない分を兵庫県や阪神水道企業団から購入しているんだけど、その水道水の購入費用が「受水費」なんだよ。



あと「人件費」って何なの？



水道の仕事をしている職員の給料や通勤手当、健康保険料などが「人件費」に含まれているよ。



それじゃあ「支払利息」って何の利息なの？

水道施設を整備するときなどに借り入れたお金の利息になるんだけど、毎年1億円を超える額になっているんだよ。





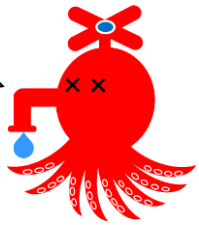
もう１つ残っている「減価償却費」って？

「減価償却費」は「長期前受金戻入」とセットで考えると分かりやすいから、あとでまとめて説明するね。
まずは、損益計算書から分かることを次のページで説明するよ。



損益計算書の「収入」から「支出」を引いてみよう。

収入―支出＝純利益（または純損失）	▲３７６，８５４，２４８円



約３億８，０００万円のマイナスだね。
「収入」から「支出」を引いたものがプラスだと「純利益」、マイナスだと「純損失」と呼ぶんだよ。前にも言ったけど、「黒字」、「赤字」と言った方が分かりやすいかな？
損益計算書から分かることは、水道事業が黒字だったか、赤字だったかってことなんだ。



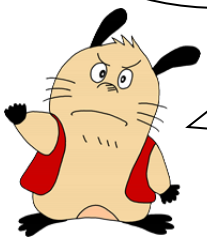
令和７年度は、ついに赤字になったんだね。これから大丈夫なのかな？　気になってきたね。
もう少し詳しく、損益計算書の中身のことを聞かせてよ。



はい、分かったよ。差し引きでマイナスになったけど、実はさらに…、水道事業には損益計算書に載っていない「支出」もあるんだ。



損益計算書には、その１年間にかかった費用を載せるって決まりがあるんだ。
たとえその年に支払った施設の整備費用であっても、整備した施設は、その年だけじゃなくて、施設がある限り、ずっと使えるよね。
だから、その１年の間だけにかかった費用とは言えないから損益計算書の「支出」には載っていないんだ。
ちなみに、この損益計算書には載っていない「支出」のことを、
「資本的支出（しほんてきししゅつ）」って呼ぶんだよ。



急に難しくなったな…。
とにかく、施設の整備はその年のことだけじゃないから、損益計算書には載っていないんだね。
じゃあ、結局令和７年度は施設の整備にどれだけお金を使ったの？

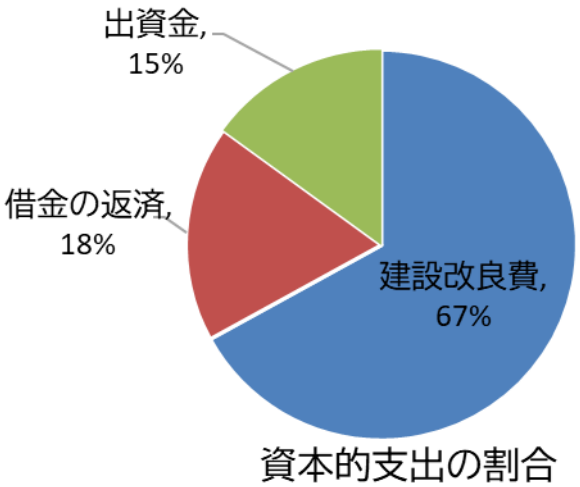


次のページで「資本的支出」について説明するね。

「資本的支出」（＝損益計算書には載っていない支出）を見てみよう。

資本的支出　　（税抜）

内 容	金額（円）
建設改良費（けんせつかいりょうひ）	2,197,776,272
借金の返済（しゃっきんのへんさい）	601,154,218
出資金（しゅっしきん）	493,021,734
合　計	3,291,952,224



「建設改良費」は施設の整備費用のことだよ。
施設の整備には約２２億円かかっているんだ。
あとは、施設を整備する時に借りた借金を返すお金や令和７年度から阪神水道企業団に加入したんだけど、その加入にかかる費用（出資金相当分）も損益計算書には載っていないよ。

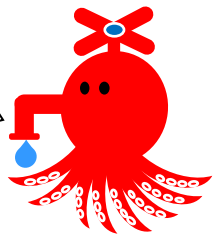




損益計算書に載っていない「支出」が約３３億円もあるんだね…。
損益計算書の「収入」は維持管理費などで使ってしまって全然足りない気がするけど、ほかにも「収入」があったりするの…？

そうなんだ。
施設の整備費用が損益計算書の「支出」に載っていないように、損益計算書に載っていない「収入」もあるんだよ。
施設整備のために借りたり、もらったりするお金なんだけど、これを「資本的収入（しほんてきしゅうにゅう）」って呼んでいるんだ。

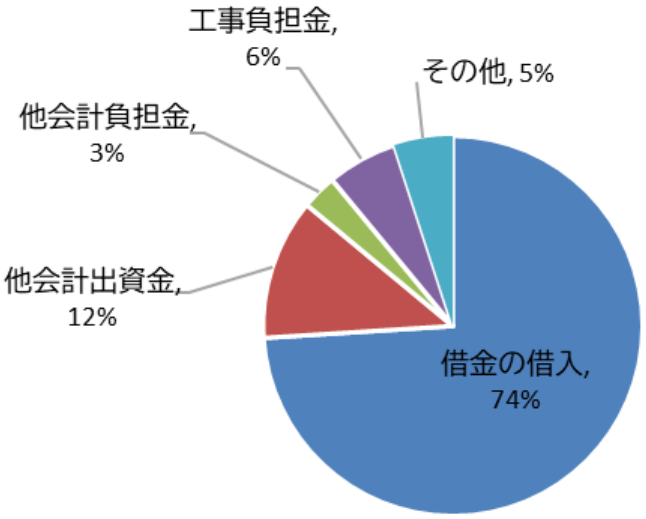
「資本的収入」について、次のページで説明するね。



「資本的収入」(＝損益計算書には載っていない収入)を見てみよう。

資本的収入(※)　　(税抜)　　(※)決算額の内、翌年度繰越額に係る財源を除いています。

内 容	金額（円）
借金の借入	1,050,900,000
他会計出資金	167,233,550
他会計負担金	40,841,900
工事負担金	82,552,500
その他	68,002,213
合　計	1,409,530,163



資本的収入の割合

借金の借り入れが大きいことが分かるね。
「工事負担金」は、大規模な住宅開発に係る水道施設の拡張や改良のための費用を開発事業者が負担するお金がほとんどなんだ。
「他会計負担金」は、火災のとき、消火活動に使用する消火栓設置費用を、明石市からもらっているお金だよ。
「他会計出資金」は、水道事業の広域化を進めるために実施する工事費用などの一部を明石市からもらっているお金だよ。





明石市からもらっている負担金、出資金には、税金が投入されているってことなの？

するどいね。そのとおり。
「他会計負担金」「他会計出資金」は税金だよ。たとえば、火災への対応のための消火栓を設置することは、市として取り組むべき仕事なんだ。
このように、本来市として取り組む必要がある仕事を、水道が代わりに行うときなどには、それにかかったお金について、水道料金収入ではなく、税金をもらうことになるんだよ。



じゃあ最後に、損益計算書で純利益（または純損失）を計算したように、「資本的収入」から「資本的支出」を引いてみよう。



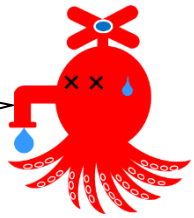
「資本的収入」から「資本的支出」を引いてみよう。

資本的収入―資本的支出（施設の整備）	▲１，８８２，４２２，０６１円



約１８億８，０００万円の赤字？
いったいどうやって施設の整備をしているの…？

この赤字分も損益計算書の「収入」で補(おぎな)わなくちゃいけないんだ。





損益計算書の「収入」…？
なるほど。でも、損益計算書の「収入」は、「維持管理費」や「減価償却費」などで全部使ってしまって、なお不足分として「純損失」が約３億８，０００万円出ているんだよね？

すごい。よく覚えているね。
水道料金や長期前受金戻入などの収入から、維持管理費や減価償却費などの支出を差し引いたものが、プラス（黒字）の時は「純利益」、マイナス（赤字）の時は「純損失」だったね。
ここで問題なのが、「減価償却費」と「長期前受金戻入」なんだ。
その年に支払った施設の整備費用であっても、整備した施設は、その年だけじゃなく施設がある限りずっと使えるから、損益計算書の支出には載せないんだったよね。
その代わりに、整備費用を施設が使える年数で割ることで、その１年の間にかかった費用として計算するんだ。これが「減価償却費」だよ。
「長期前受金戻入」は、「減価償却費」の収入バージョンで、施設整備の際にもらった負担金や補助金などを、その施設が使える年数で割って、１年分の収入を計算したものなんだよ。





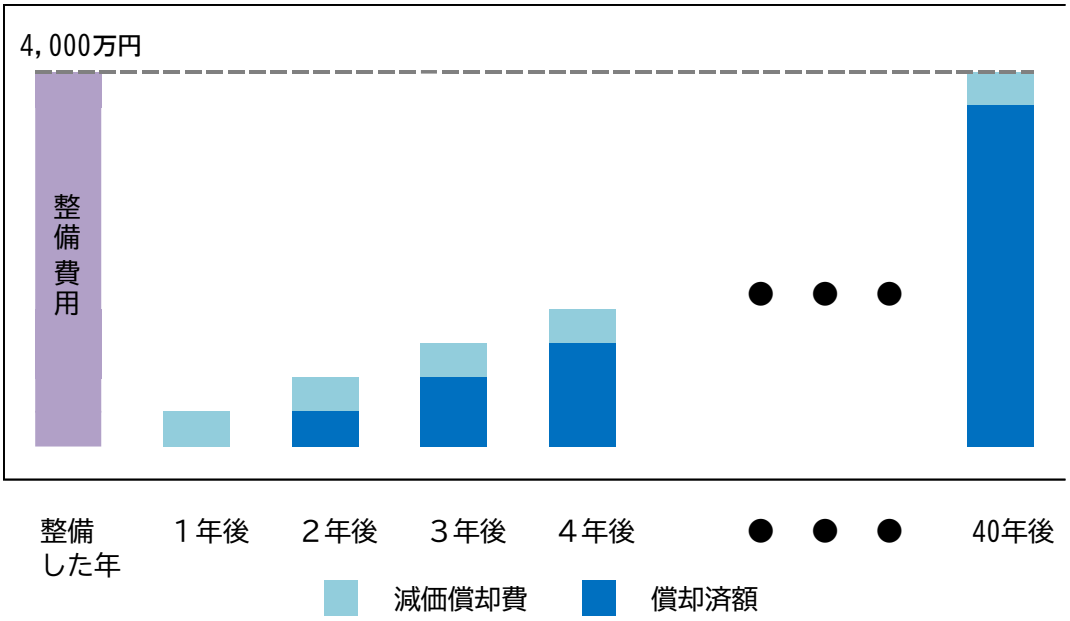
なんだか言葉だけじゃ、なかなか理解できないなあ・・・。

そうだね。言葉で説明するのがとっても難しいから、次のページで、図を使って説明するね。



減価償却費のイメージを例示図で見てみよう。

４０年使える水道管を４，０００万円で整備した時の減価償却費のイメージ
（※定額法、残存価格を０とした場合）



整備費用４，０００万円を使える年数４０年で割った１００万円が毎年の減価償却費になっていることが分かるね。
長期前受金戻入も、「支出」か「収入」かだけの違いで、考え方は同じだよ。





う～ん…。難しいけど、なんとなく分かったぞ。
でもこれが、「資本的収入－資本的支出」の赤字と、どんな関係があるの？

また少しだけ難しい話になってしまうけど、「減価償却費」はその年にお金が使われていない費用なんだ。
上の図で言うと、整備した年に４，０００万円は支払い済みだから、１年後以降の１００万円はお金が出ていかないんだよ。
だから、損益計算書の純利益を考える時には水道料金などの収入から減価償却費を引いたけど、実際にはその分のお金が手元に残っているままなんだ。





「減価償却費」は、むかしに支払った「整備費用」のうちの令和７年度分を計上しているだけだから、実際にはお金の支払いは無いんだね。
だからこのお金は、「資本的収入－資本的支出」の赤字を埋めるために使えるってことなのかな？

そのとおり。
逆に「長期前受金戻入」は、むかしにもらった「負担金」や「補助金」のうちの令和７年度分を計上しているだけだから、お金の動きを考えるときには、引かなくちゃいけないんだ。



まとめ

ここまでの話をまとめてみよう。
「資本的収入―資本的支出」の赤字額は約１８億８，０００万円。
損益計算書上の純損失（赤字額）は約３億８，０００万円。
損益計算書で支出に計上したけど手元に残っているお金（減価償却費）は約１６億円。
損益計算書で収入に計上したけど使えないお金（長期前受金戻入）は約４億１，０００万円。
全て足し引きすると下の計算式のようになるよ。



資本的収入―資本的支出		▲１，８８２，４２２，０６１円
損益計算書上の純損失（赤字額）	▲	３７６，８５４，２４８円
減価償却費	＋	１，６０３，５１２，０４３円
長期前受金戻入分	▲	４０６，３２３，０７３円
収支額の調整（加減算）後		▲１，０６２，０８７，３３９円



計算結果がマイナスってことは、「資本的収入―資本的支出」の赤字分を補うことができていないんだね。

そうなんだ…。令和７年度は約１０億６，０００万円不足が出たね。でも、ご安心を。令和７年度みたいに不足が出たときや今後の水道施設の整備のために、これまでに生じた利益などを貯めているんだ。

このお金は「補てん財源」と呼ばれているよ。

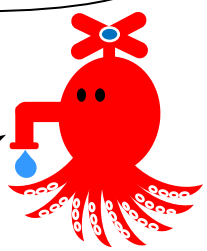
令和７年度は、これを使って不足分を補ったんだよ。



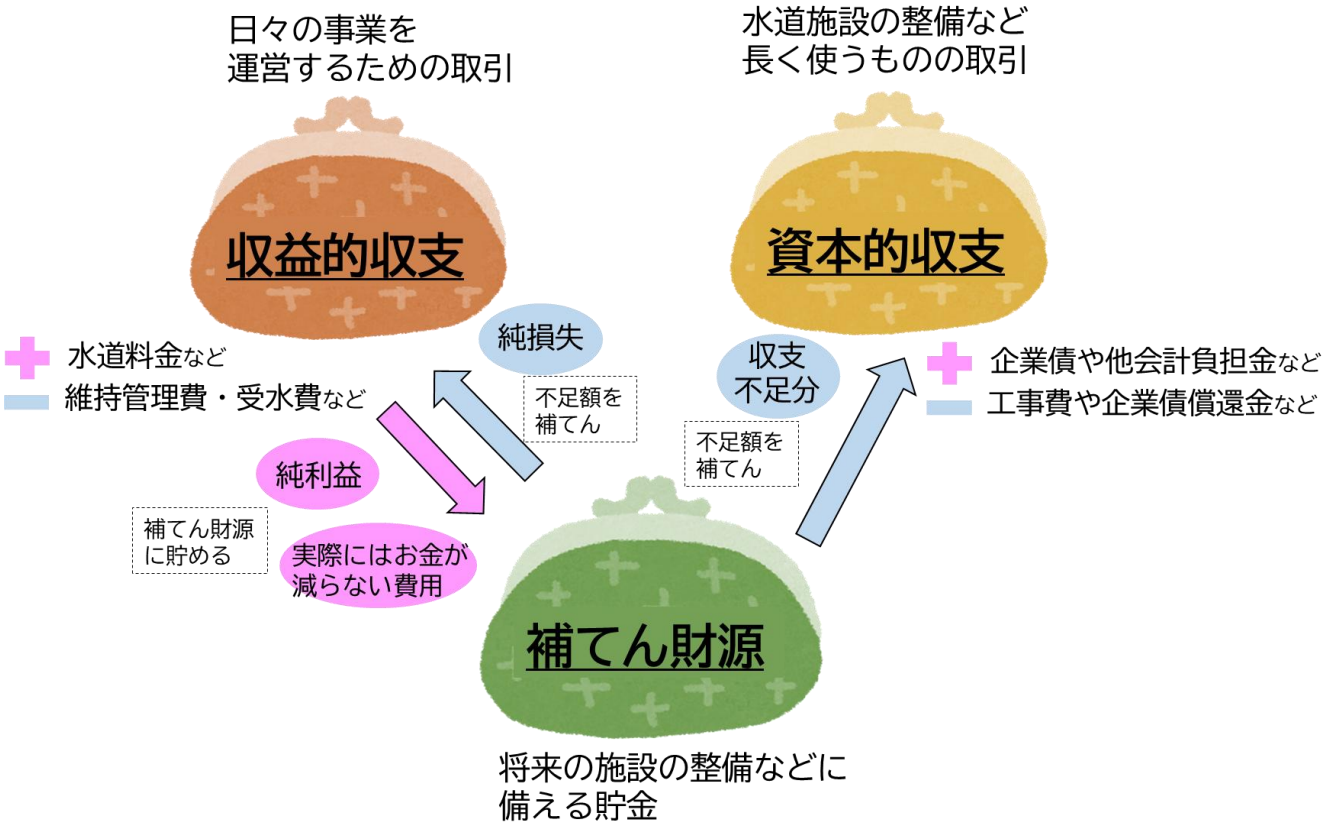


損益計算書の赤字や「資本的収入」と「資本的支出」の赤字の状態も見ないといけないし、またそれをどうやって補ったのかの結果についても、ちゃんと見ないといけないんだね。

そのとおり。この「補てん財源」と今まで見てきた「収益的収支」「資本的収支」の３つから水道事業会計が成り立っているよ。
もう少し詳しく水道事業会計の仕組みを見てみよう。



水道事業会計の仕組み





この図を見ると、水道事業会計には３つのお財布があることが分かるね。

この図でポイントとなるのは、水道事業では、収支が不足した分について、過去に貯めた収益的収支からの貯金（補てん財源）を使って、水道施設の整備などを行っているということなんだ。



水道事業会計では、１年ごとに「収益的収支」と「資本的収支」の２つのお財布の中身を空にする必要があるんだ。なので、前年度までの「収益的収支」で得た純利益や実際にはお金が減らない費用は「補てん財源」のお財布に貯めることになるんだよ。
ところで、実際にはお金が減らない費用っていうのは、その年にお金が使われていない費用って言い換えることができるんだけど、これは今まで出てきた費用の中で何にあたるか分かるかな？





今までに出てきた費用ということは・・・、
「減価償却費」だね。

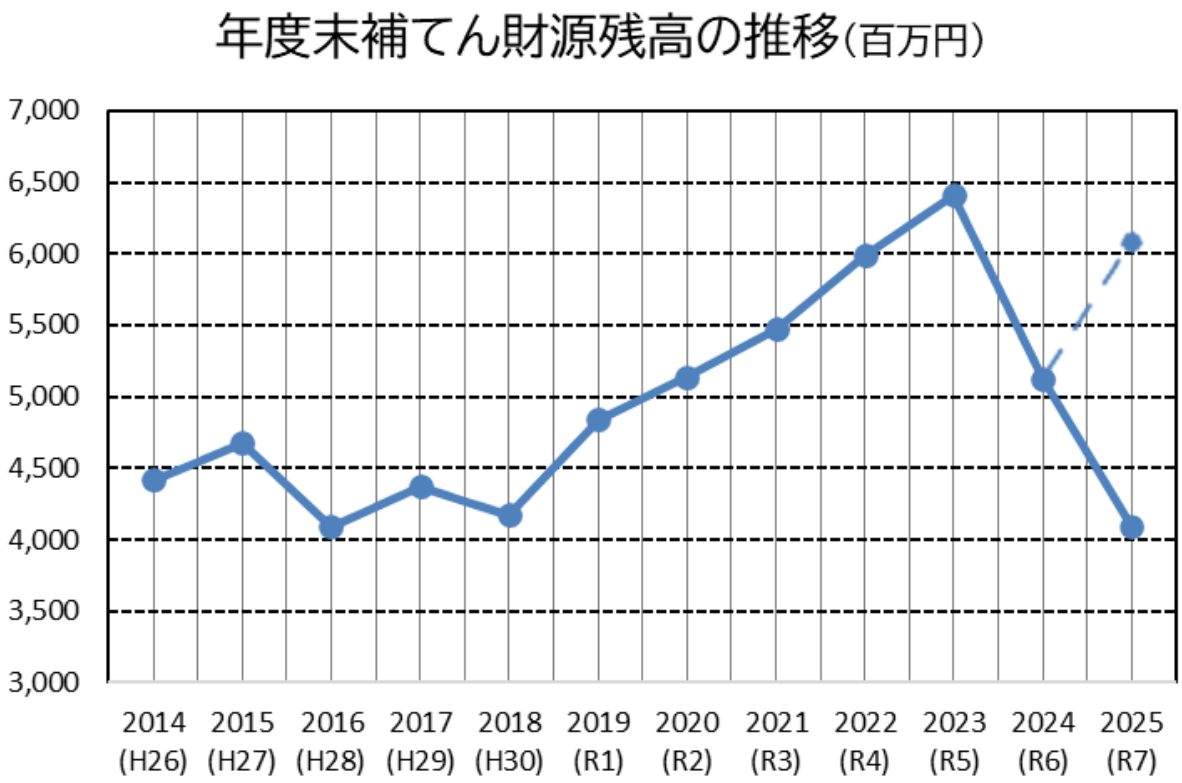
よく分かったね。純利益や減価償却費などの実際にはお金が減らない費用は「補てん財源」としてお財布に貯められて、「収益的収支」「資本的収支」の２つのお財布の中身に不足が生じたら、ここから不足分を補てんすることになるよ。





これからも「資本的収支」の不足分が出たときに補てんできるように、「収益的収支」のお財布から「補てん財源」のお財布に確実にお金を貯められることが重要なんだね。
「補てん財源」って今どれくらいあるのか知りたいな。

３「補てん財源」の動きを見てみよう



※令和７年度の実線数値は、令和８年度へ繰越した支出（施設整備費用）のために令和７年度中に前もって収入し、一時的に補てん財源として貯めた額約 20 億円を除いた、実質的な補てん財源の残高を示しています。

「補てん財源」を、平成２６年度以降の動きで見てみると、令和５年度までは増える傾向にあったけど、令和６年度からは、傾向が変わって、一気に減っているね。



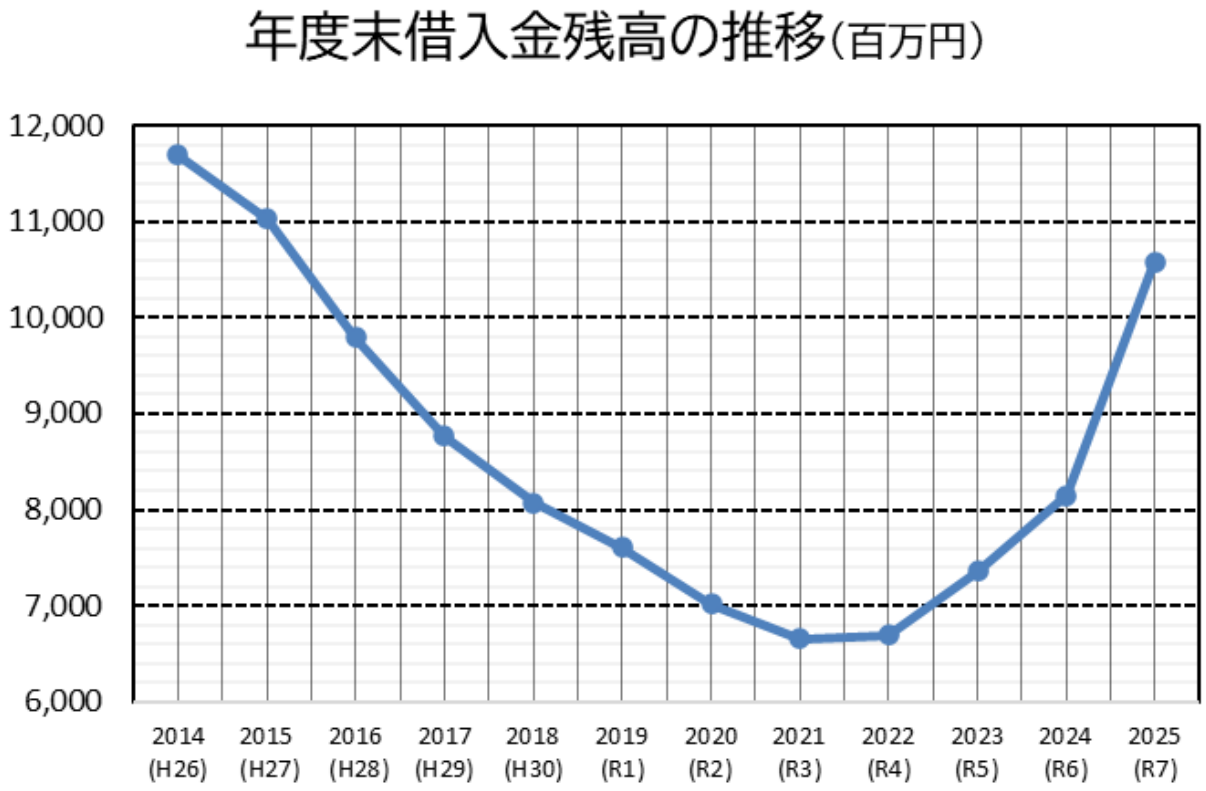


今は４１億円ぐらい「補てん財源」があるんだね。
これが多いのか少ないのか、桁が大きすぎて分からないよ…。

さっき、「補てん財源」は今後の水道施設の整備や赤字が出た時の補てんに使えるお金と言ったんだけど、水道事業は、まさにこれから水道施設の整備をしていかないといけない状況なんだよ。
その費用を支払うための手段として、「補てん財源」のほかに令和元年度から「借入金」を活用しているよ。「借入金」が今どれくらいあるのか見てみよう。



４「借入金残高」の動きを見てみよう



「借入金」を、平成２６年度以降の動きで見てみると、令和３年度まで減少し、その後は増加しているね。特に令和５年度からは一気に増えていて、今は「借入金」が１０６億円ぐらいあるよ。





令和３年度以降は毎年増えているんだね。
これからも、「借入金」を活用していく予定なの？

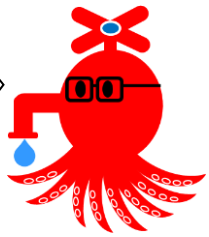
令和８年度以降も、将来的に返済ができるように注意をしながら、水道施設の整備費をまかなうために、「借入金」も活用していく予定だよ。
水道料金の仕組みと現状を見てみよう。



５ 水道料金の仕組みと現状を見てみよう

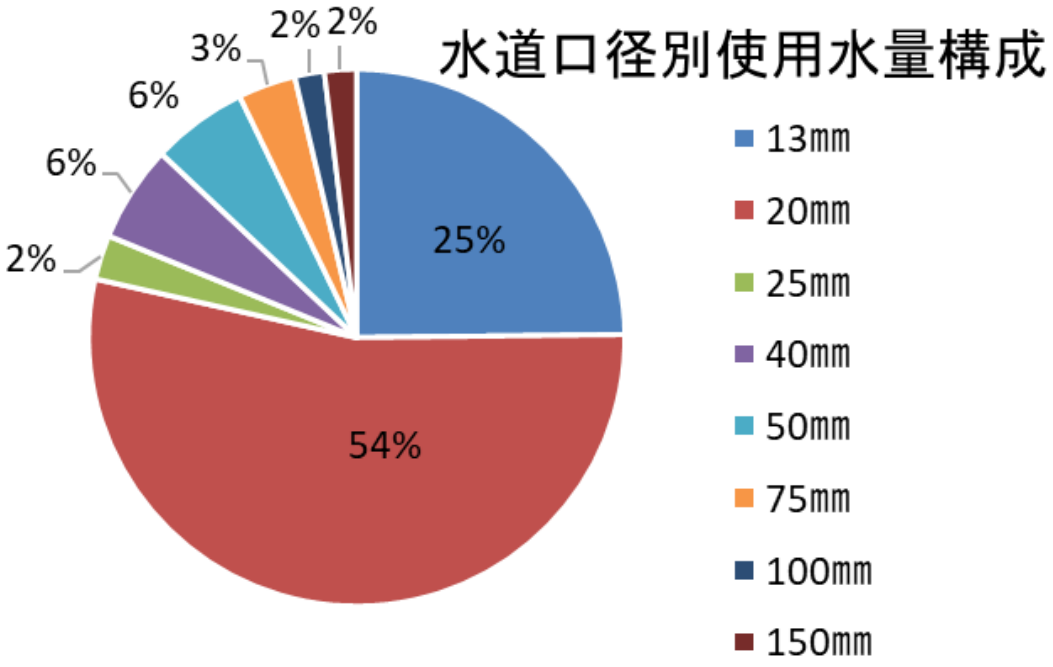
明石市では、各家庭（25㎜ 以下）や工場など(40㎜ 以上)に水道水を供給する水道管の大きさ（口径）ごとに、基本料金単価や使用料金単価（供給単価）がより高くなっていく仕組み（※）を採用しているんだ。
また水道水をつくる単価（給水原価）は、どの大きさ（口径）でも等しいので、多くの家庭などは安価で水道水を使用できていることになるね。

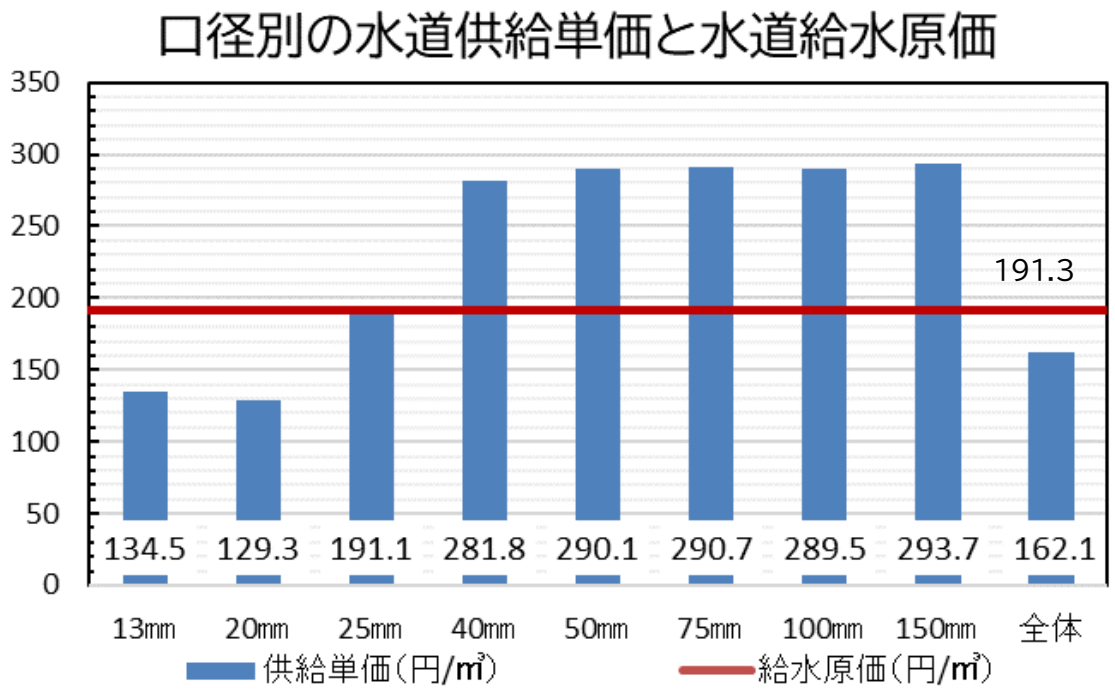
（※）逓増型（ていぞうがた）料金制度・・・多くの市町村で採用されている仕組み



「供給単価」とは、１年間における水道料金収入の全体金額を、１年間に水道使用者が使用した全体水量で割って求める、水道水１㎥あたりの平均単価です。

「給水原価」とは、１年間における水道水の製造などにかかる全体費用を、１年間に水道使用者が使用した全体水量で割って求める、水道水１㎥あたりの平均費用です。







ほんとだね。２つのグラフを見ると、水道使用量の約８割にあたる家庭用の水道料金単価が、水道水をつくる単価よりも低くなっているね。
その代わり、２割弱にあたる工場などの業務用の水道料金単価が高くなっていて、令和７年度は全体の供給単価よりも給水原価の方が高くなっているんだね。

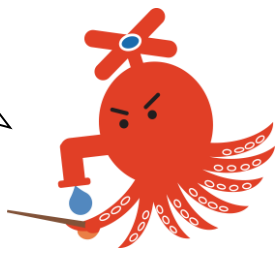
そのとおりなんだよ。
最近の燃料費や原材料費、委託費などの値上がり、受水の増量などによって、給水原価は増加傾向にあるんだ。
また皆さんの節水努力などによって、供給単価に水道使用量を掛けて算出される水道料金収入は、これまで減る傾向（Ｐ２６）にあるんだよ。
だから現状では、全体の供給単価が給水原価を大きく下回り、赤字経営になってしまったんだ。





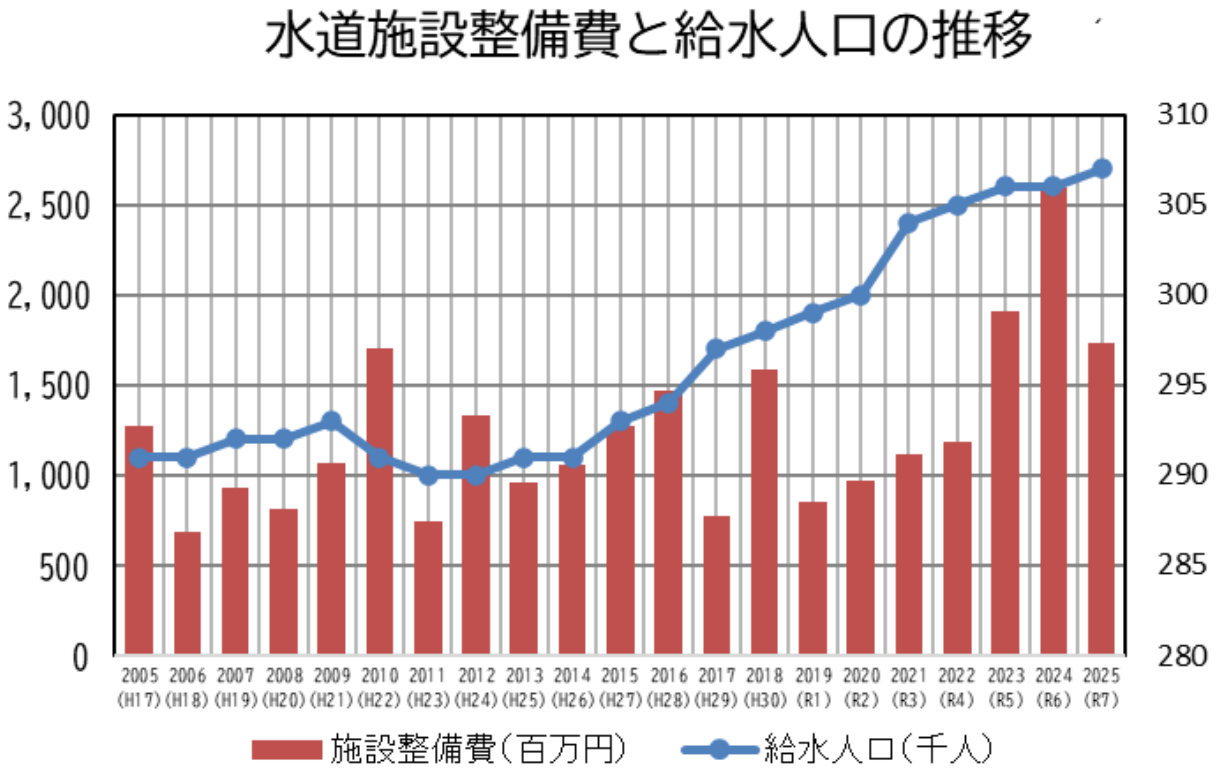
それはとっても心配な状況だね。
今の水道事業の状況を、もっと詳しく教えてよ。

水道事業のことを気にかけてくれてありがとう。
これから、水道事業の置かれている状況について、過去、現在の実態、将来の推計などの資料を使いながら、解説していくよ。



６ 水道が置かれている現況を見てみよう

水道施設整備費（建設改良費）と給水人口（水道使用者数）の推移



明石市内には、約９３０㎞もの水道管や、３か所の浄水場及び配水場、２か所の貯水池などの水道施設があるよ。
その中には水道事業の拡張に伴って整備してきた古い施設がたくさんあって、それらの施設は整備して終わりじゃなくて、古いまま放置すると水道管の破裂みたいな事故につながるから、改築や更新が必要なんだ。
それらの古い施設の改築や更新をするには、たくさんのお金が必要になるんだ。

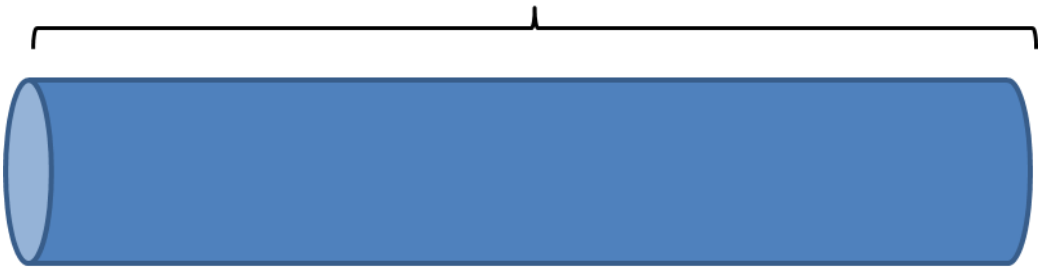


水道水を家庭まで届ける水道管を、それぞれの耐用年数（一般的に使用できる寿命年数のこと）が来るごとに新しくしていく場合、仮に現在の物価水準ならどうなるか、見てみよう。



水道管の更新に必要となる費用（概算）

約９３０ｋｍ
（およそ明石市役所から函館市役所までの直線距離換算）

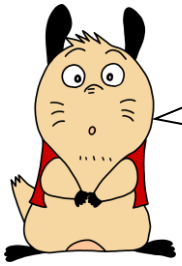


すべて更新に係る費用；約２，０４６億円（※）

（※）水道管の更新費用は１ｋｍあたり約２．２億円（令和７年度の予算単価等による）



最近、原材料価格や作業人件費などが年々増えていっているので、実際には、もっと多額の費用がかかることが想定されるんだよ。
また最新の水道管は、約１００年間使用可能とされているから、明石市全体の約９３０ｋｍから逆算すると、将来的な目標として、１年間で約９．３ｋｍの更新が必要となるんだよ。
その将来的な目標である９．３ｋｍの更新を実現するためには、単純計算で、毎年度の水道管更新費用が、約２０．５億円必要となるんだよ。

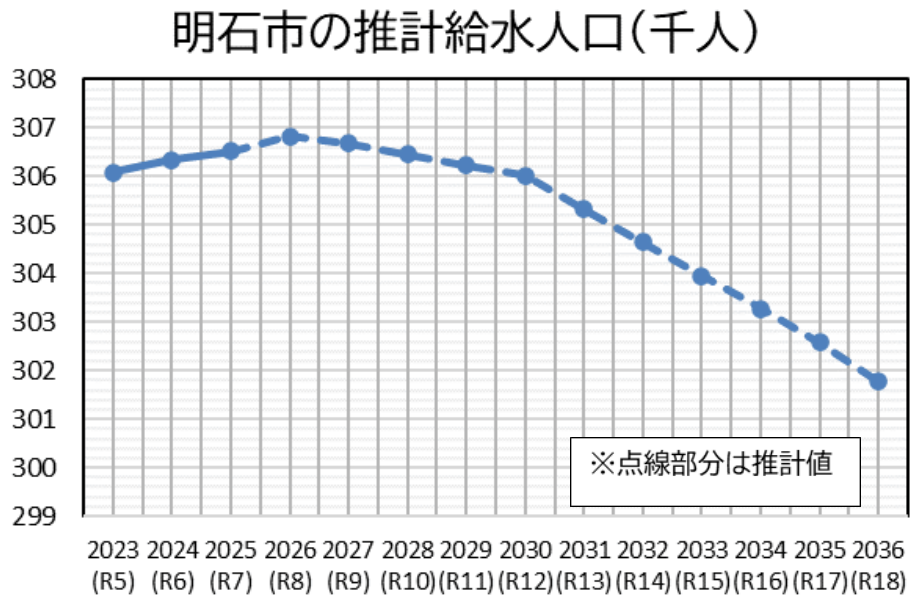


施設は整備して終わりじゃなくて、ずっと使えるように新しくしていかないといけないんだね。

今後の明石市の推計給水人口（水道を使うであろう人の数）を見てみよう。



今後の給水人口の推計



明石市の給水人口は、令和９年度以降には、ゆるやかに減少していくと見込んでいるよ。
給水人口が減少するということは、水道を使う人が減ってしまうということだから、水道料金の収入が減ることになるんだよ。

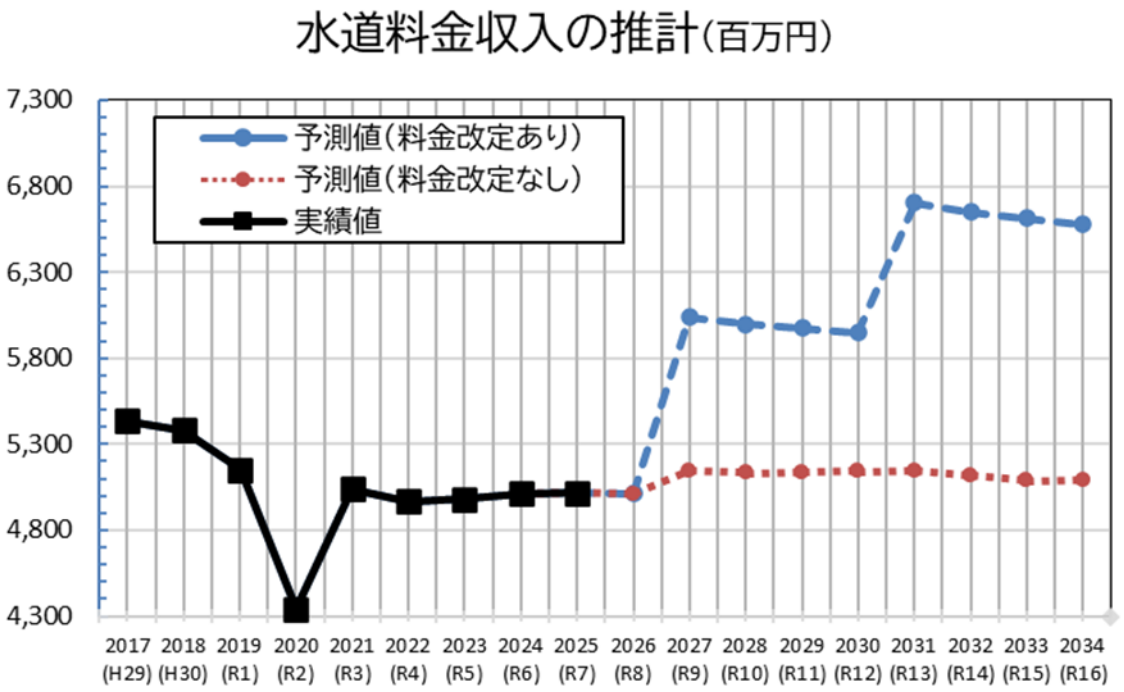


それって大変なことじゃない。
水道事業は、将来どうなっていくの？

問題が山積みだけど、手遅れにならないように、長期的な視点に立って、将来を見据える必要があるんだ。
水道は皆さんの生活に最も身近で重要なライフラインだから、明石市上下水道局では、これからも安全で安心な水道水を安定して水道使用者にお届けしていくために、『未来につなげる明石の水道』を基本理念とする新しい「明石市水道事業経営戦略(あかししすいどうじぎょうけいえいせんりゃく)」(計画期間;令和9年～令和 20 年)を、令和８年度中に策定する予定だよ。
その理念の実現に向けて、長期的な視野に立った効率的な水道施設の改築・更新計画や水道経営・水道料金のあり方を、絶えず考えているんだ。
そして将来の補てん財源の残高や借入金の残高などがどうなるのかを検討して、手遅れになる前に、次の手が打てるようにしていくよ。

次に、水道施設の維持管理や、古くなった施設の更新に使うお金の大部分を占める水道料金収入が、これからどうなっていくかについて見てみよう。

水道料金収入の推移



節水意識の高まりや、節水機器の普及・機能向上などによる使用水量の減少で、水道料金の収入は年々減る傾向にあったんだ。
今後は人口も減少していくので、今の料金水準のままでは、もっと水道料金収入が減少して、より厳しい経営状況が予測されるんだよ。



これまで説明させてもらったように、現在水道事業はとても厳しい状況に置かれているので、水道使用者の皆さんには、どうか令和９年度からの料金改定について、理解と協力をお願いしたいのです。



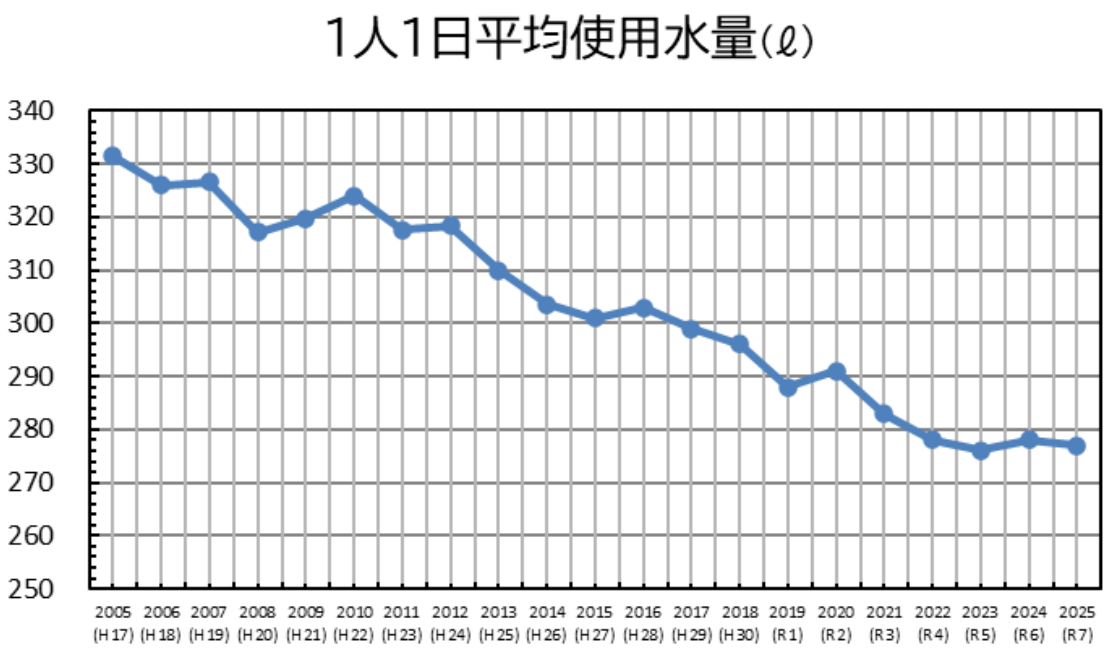


言いたいことは分かったけど、そう言うのなら、実際のところ、水道を使用するみんなが普段使っている水道使用量は、どのくらい減ってきているの？

それは、水道使用者の１人１日あたりの使用水量の推移を、グラフに示しているから、見てみよう。



水道使用者の1人1日平均使用水量の推移





一貫して減少傾向が続いているね。
施設整備など、やらなきゃいけないことがあるのに、収入が減る・・・。
今の料金水準のままでは、経営は立ち行かないかもしれないね・・・。

このままだと水道料金収入が減っていって、施設整備を進めづらくなって、古い水道管がさらに増えていくおそれがあるんだよ。
でも、そうならないために、水道料金改定のお願いに加えて、新しい経営戦略を作り、これからの将来像をしっかりと見据えた計画を立てて、手遅れになる前に、必要な手立てを講じていくよ。





水道は生活に最も身近で重要なライフラインだから、ずっと水道が使えるように、これからも全員で考え続けていく必要があるね。

7 財務三表の解説

【図解】損益計算書(令和7年度決算書P5～6関連)

☆損益計算書とは？

損益計算書は、ある一定期間における企業の経営成績を明らかにするため、その期間中に得たすべての収益、これに対応するすべての費用、最終的な損益を記載する報告書です。

☆損益計算書から分かること

損益計算書からは、どのような経営活動によって、どれだけの経営成績を上げたかを知り、それに基づいて過去の経営を分析し、また、将来の方針を立てることができます。



３つの方法で損益を把握します
損益　＝ 収益　－ 費用

プラスなら利益が出ている。
マイナスなら損失が出ている…。



☆注目のポイント

①営業”損失”が発生

本業による損益が分かる。
水道事業の本業は、きれいな水を作って、みなさんにお届けすることです。水をきれいにする費用や、みなさんからいただいた水道料金収入等の、主たる営業活動の結果を表しています。

②経常”損失”が発生

経常活動から生じた損益が分かる。
本業に関する損益に加えて、国や県の補助金、一般会計からの繰入金(税金等)による収入や、借入金利息の支払い等の資金調達等に関する損益の結果を示しています。

③当年度純”損失”が発生

最終的な損益が分かる。
１年間のすべての損益の結果を示しています。

令和７年度明石市水道事業損益計算書

（令和７年４月１日から令和８年３月３１日まで）

				（税抜き）	
1	営業収益	円	円	円	
(1)	給水収益	5,017,088,192			
(2)	受託工事収益	5,679,336			
(3)	その他営業収益	206,520,937	5,229,288,465		(ア)
2	営業費用				
(1)	原水及び浄水費	1,361,419,356			
(2)	受水費	1,739,440,417			
(3)	配水及び給水費	910,572,618			
(4)	受託工事費	7,425,955			
(5)	業務費	329,009,354			
(6)	総係費	215,781,388			
(7)	減価償却費	1,603,512,043			
(8)	資産減耗費	34,074,560			
(9)	その他営業費用	0	6,201,235,691		(イ)
	営業損失			971,947,226	(ウ)=(ア)-(イ) 〔※営業損失の時;(ウ)の値はマイナスです〕
3	営業外収益				
(1)	受取利息	16,141,128			
(2)	他会計補助金	48,003,426			
(3)	長期前受金戻入	406,323,073			
(4)	雑収益	260,219,305	730,686,932		(エ)
4	営業外費用				
(1)	支払利息及び企業債取扱諸費	131,375,227			
(2)	雑支出	1,331,143	132,706,370	597,980,562	(オ) (カ)=(エ)-(オ)
	経常損失			373,966,664	(キ)=(ウ)+(カ) 〔※経常損失の時;(キ)の値はマイナスです〕
5	特別利益				
(1)	固定資産売却益	5,068,097			
(2)	過年度損益修正益	26,892			
(3)	その他特別利益	0	5,094,989		(ク)
6	特別損失				
(1)	固定資産売却損	3,817,126			
(2)	過年度損益修正損	4,165,447			
(3)	その他特別損失	0	7,982,573	△ 2,887,584	(ケ) (コ)=(ク)-(ケ)
	当年度純損失			376,854,248	(サ)=(キ)+(コ) 〔※当年度純損失の時;(サ)の値はマイナスです〕
	前年度繰越利益剰余金			356,848,130	
	その他未処分利益剰余金変動額			688,400,000	
	当年度未処分利益剰余金			668,393,882	

☆注目ポイント

経常収支比率(%) 経常収益÷経常費用×100　＝ 94.1(%)

水道使用者の皆さまからいただく水道料金収入（給水収益）や明石市からもらった繰入金等の収益で、維持管理費や支払利息等の費用をどの程度賄えているかをを表します。

≪参考；前年度＝ 100.1（%）　≫

◎100%以上であるときは、その年度の収支が黒字であることを表します。

≪参考；R06決算類似団体平均値=108.7（%）　≫

【図解】貸借対照表(令和7年度決算書P9～11関連)

☆貸借対照表とは？

貸借対照表は、年度末時点に企業が所有しているすべての資産、負債及び資本を表示する報告書です。

☆貸借対照表から分かること

表の左側【資産の部】からは、企業が事業を行うために所有している資産の残高を知ることができます。
表の右側【負債の部】及び【資本の部】からは、資産を取得するためにどのように資金を集めたかを知ることができます。

資産は、性質によって「固定資産」と「流動資産」に分かれています。
区分の仕方は、１年間のうちに現金化できるものを「流動資産」、できないものを「固定資産」としています。
この区分のルールを「ワンイヤールール」と呼びます。

☆注目ポイント

①流動比率(%)＝流動資産÷流動負債×100　＝　574.3（%）
すぐに支払わなければならないお金（流動負債）を、すぐに支払えるか（現金等の流動資産がどれくらいあるか）を表します。　≪参考；前年度＝ 324.3（%）　≫
◎200%以上が理想的で、指標が高いほど経営が安定していると言えます。
≪参考；R06決算類似団体平均値＝　217.1（%）　≫

②有形固定資産減価償却率(%)＝有形固定資産減価償却累計額÷有形固定資産のうち償却対象資産×100＝ 63.6（%）
≪参考；前年度＝ 63.3（%）　≫
有形固定資産の減価償却がどの程度進んでいるか（その資産をどれくらいの期間使っているか）を表します。
◎指標が高いほど資産の老朽度合いが高いと言えます。
≪参考；R06決算類似団体平均値＝　53.2（%）　≫

指標を前年度や他の団体と比べることで、現在の経営状況を把握することができるんだね。



令和７年度明石市水道事業貸借対照表

(2026年(令和８年)3月31日)

【勘定式】　（単位：円）

資産の部		負債・資本の部	
固定資産	34,061,564,511	固定負債	11,213,265,836
有形固定資産	32,243,989,879	企業債	10,015,955,260
土地	2,956,972,387	建設改良費等の財源に充てるための企業債	10,015,955,260
建物	2,841,026,306	引当金	1,197,310,576
減価償却累計額	△ 2,055,888,719	退職給付引当金	541,810,576
構築物	62,721,369,862	修繕引当金	655,500,000
減価償却累計額	△ 38,582,281,609	流動負債	1,455,100,165
機械及び装置	14,571,210,520	企業債	569,405,106
減価償却累計額	△ 10,268,557,109	建設改良費等の財源に充てるための企業債	569,405,106
車両運搬具	41,195,996	その他企業債	0
減価償却累計額	△ 37,795,169	未払金	796,490,751
工具器具及び備品	166,739,424	前受金	31,405,072
減価償却累計額	△ 155,048,752	引当金	41,605,544
建設仮勘定	45,046,742	賞与等引当金	41,605,544
無形固定資産	809,331,578	その他流動負債	16,193,692
施設利用権	809,331,578	繰延収益	4,837,112,024
投資その他の資産	1,008,243,054	長期前受金	18,952,939,721
出資金	1,008,021,734	受贈財産評価額	4,544,399,954
その他投資	221,320	工事負担金	11,906,335,302
流動資産	8,356,378,518	設備負担金	15,009,916
現金・預金	7,474,266,132	消火栓設置負担金	1,147,586,940
未収金	686,095,415	国庫補助金	1,240,538,650
貸倒引当金	△ 2,100,000	一般会計負担金	10,829,510
貯蔵品	33,030,541	その他資本剰余金	88,239,449
前払費用	0	長期前受金収益化累計額	△ 14,115,827,697
前払金	165,036,430	負債合計	17,505,478,025
その他流動資産	50,000	資本金	20,589,823,022
		資本金	20,589,823,022
		剰余金	4,322,641,982
		資本剰余金	1,496,288,100
		受贈財産評価額	20,248,221
		保険差益	66,404
		工事負担金	503,486,314
		設備負担金	144,414,659
		消火栓設置負担金	272,528,270
		施設分担金	131,879,000
		国庫補助金	423,665,232
		利益剰余金	2,826,353,882
		建設改良積立金	1,965,960,000
		利益積立金	192,000,000
		当年度未処分利益剰余金	668,393,882
		資本合計	24,912,465,004
資産合計	42,417,943,029	負債・資本合計	42,417,943,029

負債のうち、固定負債、流動負債は、企業債(借金)に代表されるように、他者に返さなければならない(返済義務がある)お金です。

繰延収益(くりのべしゅうえき)は、固定資産の取得や改良に充てるために国などから一括で受け取った補助金、負担金等のことです。負債に計上されていますが、固定資産の減価償却費に合わせて収益に振り替えていくため、実際には返す必要のない(返済義務がない)お金です。

資本は、資産の額から負債の額(繰延収益含む)を引いた額に相当します。
資本は、「資本金」と「剰余金」に分かれています。(参照P35)

『お金の使い道』
集めたお金が、「どのような状態」で「どれだけ」あるかが分かります。

『お金の集め方』
企業が資産を獲得するためのお金を、「どうやって」集めたかが分かります。

【図解】キャッシュ・フロー計算書（令和7年度決算書P12関連）

☆キャッシュ・フロー計算書とは？

キャッシュ・フロー計算書は、対象年度中の現金・預金の増減とその理由を表す報告書です。

☆キャッシュ・フロー計算書から分かること

損益計算書、貸借対照表からは読み取りにくい、「１年間の現金の流れ」を、その理由と合わせて知ることができます。

☆注目ポイント

①「業務活動によるキャッシュ・フロー」はプラスか？

水道事業を続けるためには、本来の業務活動で得たお金（水道料金）で、水をきれいにするための浄水場や水を配るための水道管の維持管理、更新をしていかなければなりません。
そのためには、「業務活動によるキャッシュ・フロー」は必ずプラスになる必要があります。

②「投資活動によるキャッシュ・フロー」はどの程度マイナスか？

現在、多くの水道施設が更新期を迎えており、多額の更新費用を必要としています。
施設の更新をすれば「投資活動によるキャッシュ・フロー」はマイナスとなりますが、その規模が重要です。

③「財務活動によるキャッシュ・フロー」はプラスかマイナスか？

水道事業では、水道料金で稼いだお金に加えて、お金を借りることで水道施設の更新を行っています。
「財務活動によるキャッシュ・フロー」は、借入と返済によるお金の増減を表し、借りた金額よりも返す金額の方が多ければマイナス（借入金＜返済金⇒お金↓）に、借りた金額が返す金額よりも多ければプラス（借入金＞返済金⇒お金↑）になります。

④現金を増やすことはできたか？

現金が増えているか、減っているかを確認します。
そのあとで各キャッシュ・フローを見ると、なぜそうなったのか？、を知ることができます。

令和7年度のキャッシュ･フロー計算書からは、本来の業務活動で約10.4億円を得て、施設の更新等の投資活動で約36.4億円使い、借入金の純増等が約26.0億円あったから、結果としてお金が約556.4万円増えたことが分かるんだね。



令和７年度明石市水道事業キャッシュ・フロー計算書

1	業務活動によるキャッシュ・フロー	
(1)	当年度純利益（△は純損失）	△ 376,854,248 円
(2)	減価償却費	1,603,512,043 円
(3)	引当金の増減額（△は減少）	23,910,245 円
(4)	長期前受金戻入額	△ 406,323,073 円
(5)	受取利息	△ 16,141,128 円
(6)	支払利息	131,375,227 円
(7)	固定資産売却益（△は益）	△ 5,068,097 円
(8)	固定資産除却費	34,044,682 円
(9)	固定資産売却損	3,817,126 円
(10)	未収金の増減額（△は増加）	38,806,009 円
(11)	貯蔵品の増減額（△は増加）	2,065,987 円
(12)	前払金の増減額（△は増加）	9,280,826 円
(13)	その他流動資産の増減額（△は増加）	△ 50,000 円
(14)	未払金の増減額（△は減少）	108,529,610 円
(15)	前受金の増減額（△は減少）	1,317,714 円
(16)	その他流動負債の増減額（△は減少）	2,690,021 円
(17)	その他（△は減少）	8,440 円
	小計	1,154,921,384 円
(18)	利息の受取額	16,141,128 円
(19)	利息の支払額	△ 131,375,227 円
	業務活動によるキャッシュ・フロー	1,039,687,285 円
2	投資活動によるキャッシュ・フロー	
(1)	有形固定資産の取得による支出	△ 3,004,574,192 円
(2)	有形固定資産の売却による収入	73,070,310 円
(3)	無形固定資産の取得による支出	△ 351,077,466 円
(4)	有形固定資産の取得による負担金収入	136,600,800 円
(5)	出資による支出	△ 493,021,734 円
	投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 3,639,002,282 円
3	財務活動によるキャッシュ・フロー	
(1)	建設改良費等の財源に充てるための企業債による収入	3,038,800,000 円
(2)	建設改良費等の財源に充てるための企業債の償還による支出	△ 601,154,218 円
(3)	他会計からの出資による収入	167,233,550 円
	財務活動によるキャッシュ・フロー	2,604,879,332 円
	資金増加額（又は減少額）	5,564,335 円
	資金期首残高	7,468,701,797 円
	資金期末残高	7,474,266,132 円

「業務活動によるキャッシュ・フロー」は、水道事業本来の営業活動でお金を稼げているか？を表しています。



「投資活動によるキャッシュ・フロー」は、主に水道施設の更新等、設備投資にどれだけお金を使ったか？を表しています。



「財務活動によるキャッシュ・フロー」は、主に水道施設整備の財源としての借入と返済のどちらを多く行ったか？を表しています。



8 経営指標の解説及び比較

1 各種指標の意味及び最新の実績（令和7年度決算数値）（令和7年度決算書P17～18）

番号	指標名	算式［当年度数値］			令和５年度	令和６年度	令和7年度［当年度］	令和６年度類似団体平均	指標の意味
1	経常収支比率	経常収益（千円）／経常費用（千円）	5,959,975／6,333,942	×100	% 107.65	% 100.09	% 94.10	% 108.66	給水収益や一般会計からの繰入金等の収益で、維持管理費や支払利息等の費用をどの程度賄えているかを表す指標である。単年度の収支が黒字であることを示す100%以上となっていることが必要である。数値が100%未満の場合、単年度の収支が赤字であることを示しているため、経営改善に向けた取組が必要である。
2	累積欠損金比率	当年度未処理欠損金（千円）／営業収益－受託工事収益（千円）	0／5,223,609	×100	% 0.00	% 0.00	% 0.00	% 0.00	営業収益に対する累積欠損金（営業活動により生じた損失で、前年度からの繰越利益剰余金等でも補てんすることができず、複数年度にわたって累積した損失のこと）の状況を表す指標である。累積欠損金が発生していないことを示す0%であることが求められる。
3	流動比率	流動資産（千円）／流動負債（千円）	8,356,378／1,455,100	×100	% 411.69	% 324.27	% 574.28	% 217.12	短期的な債務に対する支払能力を表す指標である。1年以内に支払うべき債務に対して支払うことができる現金等がある状況を示す100%以上であることが必要である。一般的に100%を下回るということは、1年以内に現金化できる資産で、1年以内に支払わなければならない負債を賄えておらず、支払能力を高めるための経営改善を図っていく必要がある。
4	企業債残高対給水収益比率	企業債現在高合計（千円）／給水収益（千円）	10,585,360／5,017,088	×100	% 147.61	% 162.60	% 210.99	% 253.22	給水収益に対する企業債残高の割合であり、企業債残高の規模を表す指標である。明確な数値基準はないと考えられるが、経年比較や類似団体との比較等により自団体の置かれている状況を把握・分析するために用いられる。
5	料金回収率	供給単価（円）／給水原価（円）	162.1／191.28	×100	% 99.64	% 91.64	% 84.75	% 101.56	給水に係る費用が、どの程度給水収益で賄えているかを表した指標である。料金回収率が100%を下回っている場合、給水に係る費用が給水収益以外の収入で賄われていることを意味する。数値が低く、繰出基準に定める事由以外の繰出金によって収入不足を補てんしているような事業体にあっては、適正な料金収入の確保が求められる。
6	供給単価	給水収益（千円）／年間有収水量（千㎥）	5,017,088／30,949.70		円 161.16	円 161.49	円 162.10	円 172.64	有収水量（年間の料金徴収の対象となった水量）1㎥あたりについて、どれだけの収益を得ているかを表す指標である。低額である方が水道サービスの観点からは望ましいものの、事業主体ごとに事業環境が異なるため、明確な数値基準はないと考えられるが、経年比較や類似団体との比較等により自団体の置かれている状況を把握・分析するために用いられる。
7	給水原価	経常費用－（受託工事費＋材料及び不用品売却原価＋附帯事業費）－長期前受金戻入（千円）／年間有収水量（千㎥）	5,920,193／30,949.70		円 161.75	円 176.22	円 191.28	円 169.99	有収水量1㎥あたりについて、どれだけの費用がかかっているかを表す指標である。事業体の規模や地理的条件及び水源（浄水方法含む）等の違いにより大きく差が生じるため、明確な数値基準はないと考えられるが、経年比較や類似団体との比較等により自団体の置かれている状況を把握・分析するために用いられる。
8	施設利用率	一日平均配水量（㎥/日）／一日配水能力（㎥/日）	90,313／116,030	×100	% 68.51	% 78.29	% 77.84	% 64.13	一日配水能力に対する一日平均配水量の割合であり、施設の利用状況や適正規模を判断する指標である。明確な数値基準はないと考えられるが、一般的には高い数値であることが望まれる。経年比較や類似団体との比較等により自団体の置かれている状況を把握するために用いられる。
9	有収率	年間有収水量（千㎥）／年間配水量（千㎥）	30,949.70／32,964.17	×100	% 93.41	% 93.58	% 93.89	% 90.98	供給した配水量に対する料金徴収の対象となった水量の割合であり、100%に近ければ近いほど施設の稼働状況が収益に反映されていると言える。数値が低い場合は、水道施設や給水装置を通して給水される水量が収益に結びついていないため、漏水やメーター不感等といった原因を特定し、その対策を講じる必要がある。
10	有形固定資産減価償却率	有形固定資産減価償却累計額（千円）／有形固定資産のうち償却対象資産の帳簿原価（千円）	51,099,571／80,341,542	×100	% 63.78	% 63.26	% 63.60	% 53.15	有形固定資産のうち償却対象資産の減価償却がどの程度進んでいるかを表す指標で、資産の老朽化度合を示している。明確な数値基準はないと考えられるが、一般的に、数値が高いほど、法定耐用年数に近い資産が多いことを示しており、将来の施設の更新等の必要性を推測することができる。
11	管路経年化率	法定耐用年数を経過した管路延長（千m）／管路延長（千m）	392.95／934.26	×100	% 37.20	% 39.61	% 42.06	% 29.70	法定耐用年数を超えた管路延長の割合を表す指標で、管路の老朽化度合を示している。明確な数値基準はないと考えられるが、一般的に、数値が高い場合は、法定耐用年数を経過した管路を多く保有しており、管路の更新等の必要性を推測することができる。
12	管路更新率	当該年度に更新した管路延長（千m）／管路延長（千m）	6.74／934.26	×100	% 0.44	% 0.35	% 0.72	% 0.69	当該年度に更新した管路延長の割合を表す指標で、管路の更新ペースや状況を把握できる。明確な数値基準はないと考えられるが、数値が2.5%の場合、すべての管路を更新するのに40年かかる更新ペースであることが把握できる。

（注）　参考として記載している類似団体平均の指標（6を除く）については『公営企業に係る経営比較分析表（令和６年度）』に掲載された本市水道事業類似団体（都道府県及び政令指定都市を除く給水人口30万人以上の団体）の平均値を記載しており、6の指標については『令和６年度地方公営企業年鑑』に掲載された都及び指定都市を除く給水人口30万人以上の事業より算出された数値を記載している。

（注）　表中の各数値は、適宜、それぞれの数値ごとに表示単位未満を四捨五入するなど、端数処理を行っているため、割合や内訳、集計等の結果が一致しない場合がある。

ロ　評価・分析

（経営の健全性・効率性について）

経常収支比率は100%を下回り、また令和６年度から令和７年度では数値が5.99ポイント下落（悪化）しました。これは、受水費の増加や物価上昇などに伴う経常経費の増加によるものです。

企業債残高対給水収益比率は類似団体平均値より低い水準にありますが、これは、平成25年度から平成30年度まで新規借入を抑制していたためです。しかし、令和３年度以降、水道施設の整備・更新の財源として新規借入が拡大傾向にあるため、企業債残高は増加傾向で推移していく見通しです。

また料金回収率は、下落傾向かつ100%を下回っており、今後の経営環境は非常に厳しい状況と言えます。従いまして、今後も継続した経費の節減及び経営の合理化などの取り組みはもとより、水道料金の改定による抜本的な経営改善策の実現を通じて、長期的に安定した経営を行ってまいります。

（老朽化の状況について）

有形固定資産減価償却率及び管路経年化率は類似団体より高い水準で推移しており、良好ではありませんが、管路更新率は類似団体を上回る水準に転じ、改善の方向にあります。

なお現在の考え方として、管路の更新延長を伸ばし更新率を上げるよりも、安全度の向上を重視し、重要管路を更新することを優先しており、基幹となる水道管路の漏水は、近年極めて少ない状況を維持し続けています。

今後の見通しとして、既に整備された管路の多くが高度経済成長期以降に市内各所で実施された大規模開発に伴うものであり、これら管路の経年化速度が更新速度を上回ることが予測されるため、有形固定資産減価償却率及び管路経年化率の上昇傾向が続くものと考えています。

2　経営比較分析表(総務省作成・公表資料の引用)

経営比較分析表（令和6年度決算）

兵庫県　明石市

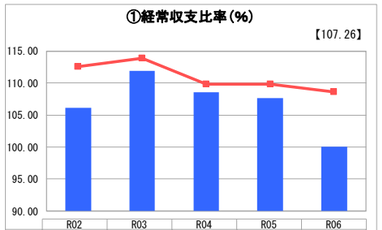
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A1	自治体職員
資金不足比率(%)	**自己資本構成比率(%)**	**普及率(%)**	**1か月20m³当たり家庭料金(円)**	
-	72.65	99.99	2,541	

人口（人）	面積(km²)	人口密度(人/km²)
307,235	49.41	6,218.07
現在給水人口(人)	**給水区域面積(km²)**	**給水人口密度(人/km²)**
307,078	49.93	6,150.17

グラフ凡例
- ■　当該団体値（当該値）
- ー　類似団体平均値（平均値）
- 【】　令和6年度全国平均

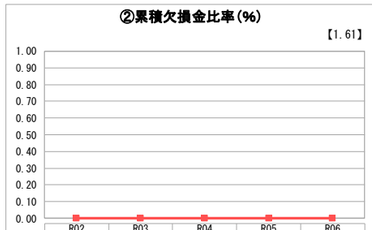
1. 経営の健全性・効率性

①経常収支比率(%)　【107.26】



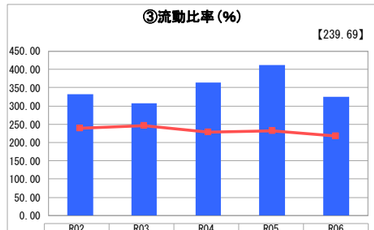
	R02	R03	R04	R05	R06
当該値	106.10	111.93	108.58	107.65	100.09
平均値	112.59	113.87	109.87	109.81	108.66

②累積欠損金比率(%)　【1.61】



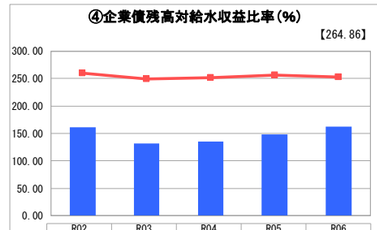
	R02	R03	R04	R05	R06
当該値	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
平均値	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

③流動比率(%)　【239.69】



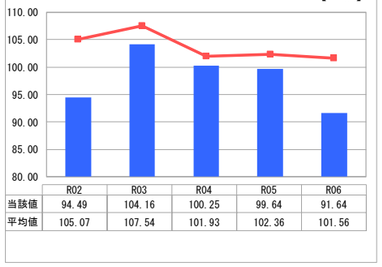
	R02	R03	R04	R05	R06
当該値	332.80	307.61	364.25	411.69	324.27
平均値	239.45	246.01	228.89	232.66	217.12

④企業債残高対給水収益比率(%)　【264.86】



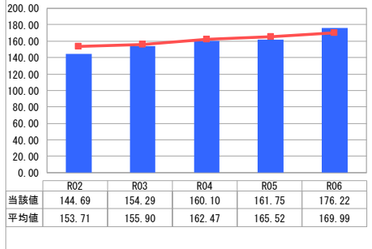
	R02	R03	R04	R05	R06
当該値	161.57	131.94	134.59	147.61	162.60
平均値	259.56	248.92	251.26	255.84	253.22

⑤料金回収率(%)　【97.59】



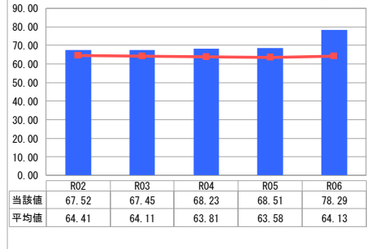
	R02	R03	R04	R05	R06
当該値	94.49	104.16	100.25	99.64	91.64
平均値	105.07	107.54	101.93	102.36	101.56

⑥給水原価(円)　【181.66】



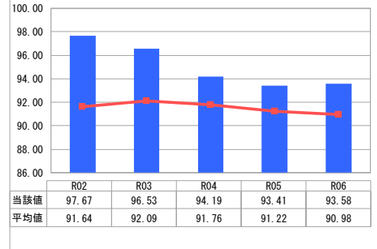
	R02	R03	R04	R05	R06
当該値	144.69	154.29	160.10	161.75	176.22
平均値	153.71	155.90	162.47	165.52	169.99

⑦施設利用率(%)　【60.21】



	R02	R03	R04	R05	R06
当該値	67.52	67.45	68.23	68.51	78.29
平均値	64.41	64.11	63.81	63.58	64.13

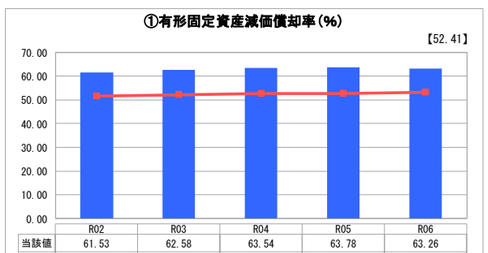
⑧有収率(%)　【89.21】



	R02	R03	R04	R05	R06
当該値	97.67	96.53	94.19	93.41	93.58
平均値	91.64	92.09	91.76	91.22	90.98

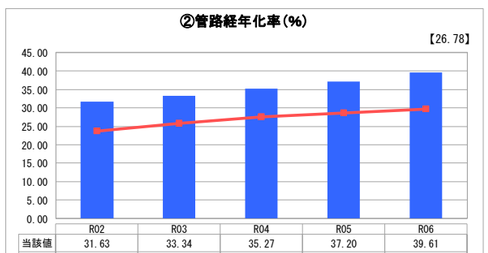
2. 老朽化の状況

①有形固定資産減価償却率(%)　【52.41】



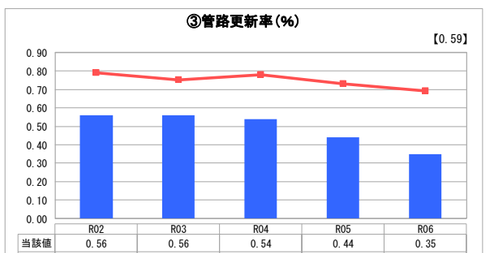
	R02	R03	R04	R05	R06
当該値	61.53	62.58	63.54	63.78	63.26
平均値	51.62	52.16	52.59	52.74	53.15

②管路経年化率(%)　【26.78】



	R02	R03	R04	R05	R06
当該値	31.63	33.34	35.27	37.20	39.61
平均値	23.68	25.76	27.51	28.57	29.70

③管路更新率(%)　【0.59】



	R02	R03	R04	R05	R06
当該値	0.56	0.56	0.54	0.44	0.35
平均値	0.79	0.75	0.78	0.73	0.69

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率は、類似団体平均値より低い水準で、100%を超えているものの、令和5年度と令和6年度を比較すると、数値が7.56ポイント下落(悪化)した。この要因は、収益の大部分を占める給水収益が増加した一方で、受水費の増加や物価上昇等に伴う経常経費が増加したことによる。
③流動比率は、令和5年度と令和6年度を比較すると、数値が87.42ポイント下落した。これは、大規模な水道施設の整備・更新工事が年度末に竣工し、流動負債である未払金が増加したことによる。
④企業債残高対給水収益比率は、類似団体平均値より低い水準にある。これは、平成25年度から平成30年度まで新規借入を抑制していたためである。しかし令和元年度より、水道施設の整備・更新の財源として借入金を活用していく方針のため、企業債残高及び当該比率は増加傾向で推移していく見通しである。
⑤料金回収率は、100%を下回り、令和5年度と令和6年度を比較すると、数値が8.0ポイント下落(悪化)した。この要因は、給水原価の増加(⑥参照)による。令和5年度に続き当該数値が100%を下回る状態に陥っていることにより、今後適正な料金収入の確保が必要な状況と言える。
⑥給水原価は、令和5年度と令和6年度を比較すると、数値が14.47円増加した。この増加は、受水費の増加や物価上昇等に伴う経常経費の増加(①と同様)による。
⑦施設利用率は、類似団体平均値と比較して良好である。今後も、給水需要の減少傾向を踏まえて施設のダウンサイジング等を図り、さらなる効率的な施設利用を目指す。
⑧有収率は、類似団体平均値と比較して良好な状態であるが、近年低下する傾向にあり、今後の推移を注視していく必要がある。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率は、償却対象資産の減価償却が進んでいるため、近年上昇(老朽化)する傾向にある。また類似団体平均値と比較しても、資産がより老朽化している状態である。なお現在、魚住浄水場の設備更新を5か年事業として実施しており、当該数値の改善を目指している。
②管路経年化率は、年々上昇(老朽化)している。また類似団体平均値と比較しても、管路がより老朽化している状態である。
③管路更新率は、令和5年度と令和6年度を比較すると、数値が0.09ポイント低下した。また類似団体平均値よりも低い水準で推移している。これは現在、管路の更新延長を延ばして更新率を上げるよりも、管路の重要性を考慮し、優先順位を決めて更新することで安全度をより向上させる方針としている結果である。従って基幹管路の漏水は、継続して少ない状態を維持できている。なお管路更新率の今後の見通しとして、現状程度の水準が続くと予測する。

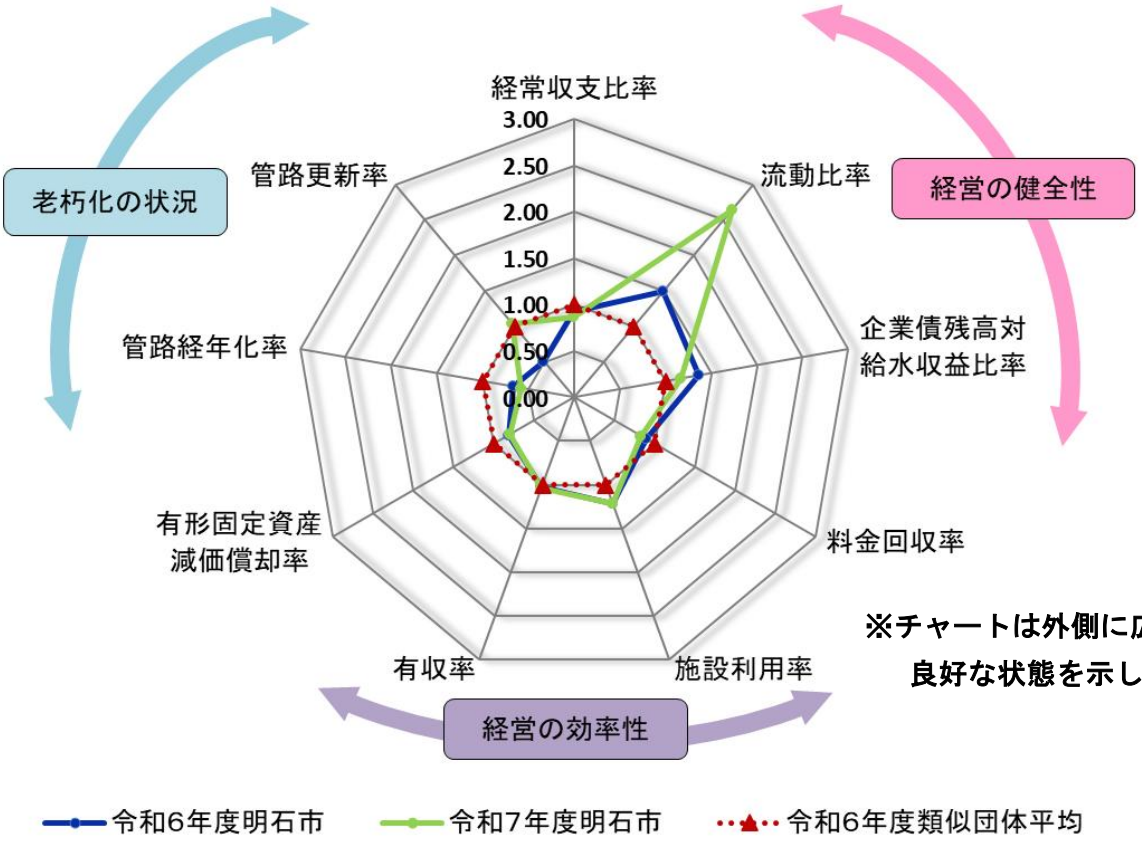
全体総括

令和6年度は、経営の健全性・効率性を示す指標(1.①,⑤,⑥)が令和5年度と比べ悪化した。この要因は、給水収益が増加したものの、受水費の増加や物価上昇等に伴う経常経費が増加したことによる。また老朽化の状況を示す指標(2.①～③)により、特に管路の老朽化の進行が確認された。これは近年において、高度経済成長期の大規模開発に伴い布設された大量の管路が順次経年管となり、管路経年化速度が更新速度を上回っているためで、今後も管路経年化率(2.②)の上昇傾向が続くと予測する。さらに現在、魚住浄水場設備など老朽化した水道施設の更新を図る大規模整備を実施中であり、老朽化度の改善(2.①の指標の低下)を目指す一方で、経営健全性の低下(1.④の指標の上昇)が懸念される。
今後も、水道法の趣旨を踏まえた施設強靭化を図り、中期経営計画に基づく経費の節減、経営合理化などの取組をさらに推進し、経営の健全性確保及び水道の基盤強化に努めるとともに、安全・安心な水道水の安定した供給と水道利用者サービスの向上に努めていく。

3 経営比較分析表をまとめて見てみよう。

経営比較分析表レーダーチャート

（令和6年度類似団体平均と令和6年度及び令和7年度の明石市との比較）



※チャートは外側に広がるほど良好な状態を示します。

明石市と類似団体平均の経営比較分析表をレーダーチャートで表すと、経営の健全性、経営の効率性、老朽化の状況をまとめて見ることができるね。





類似団体と比べると、経営の効率性については、良好な状態だけど、経営の健全性と老朽化の状況については、他団体よりも悪化した状態のものが多くなっていることが分かるね。

よく分かったね。
各種の経営指標を用いて、自分たちの経営状況の経年比較や類似団体との比較を行い、計画の見直しを行うことが大切になるね。
これからも、定期的に経営状況の分析や計画の見直しを行いながら、安全・安心な水道水の安定した供給と水道使用者の皆さんへのサービス向上に努めていくよ。



よくわかる決算書　用語解説



か

勘定・・・・・・・・・・・取引が行われるつど、資産・負債・資本・収益・費用の５つの要素を用いて記録する。それらの要素を勘定という。
また、例えば資産勘定の中でも、現金や普通預金、建物など中身は細かく分けられる。

キャッシュ･フロー計算書・・・・現金の増減に関する情報を表示する報告書のこと。(P30 参照)

給水原価・・・・・・・・１年間における水道水の製造等にかかる全体費用を、１年間に水道使用者が使用した全体水量で割って求める、水道水１㎥(立法メートル)あたりの平均費用。
水道水１㎥(立法メートル)あたりで、どれだけの費用がかかっているかを表す指標。

供給単価・・・・・・・・１年間における水道料金収入の全体金額を、１年間に水道使用者が使用した全体水量で割って求める、水道水１㎥(立法メートル)あたりの平均単価。
水道水１㎥(立法メートル)あたりで、いくらの収入が得られるかを表す指標。

減価償却費・・・・・・・使用や時間の経過に伴って、経済的な価値（将来収益を生み出すことのできる力）が減少していく建物や設備などの固定資産について、それを使用する期間（耐用年数）にわたって、毎年度徐々に費用化すること。

公営企業会計・・・・・・官公庁特有の方式である「一般会計」に対して、民間企業と似た方式をとる会計制度のこと。下記の２つの特徴がある。

① 発生主義
現金取引の有無に関わらず､経済活動の発生を記帳のタイミングと考える。

② 複式簿記
一般企業（株式会社など）と同様の記帳方法。
上記の特徴により､正確な経済状態の把握が可能になるメリットがある。

さ

資金・・・・・・・・・公営企業では、現金と預金を合算した現金相当額のこと。

資本金・・・・・・・・資本金は、固有資本金、繰入資本金、組入資本金の３種類に整理することができる。
固有資本金とは、公営企業として事業を開始する際に引き継いだ財産の額に相当するもの。
繰入資本金とは、公営企業として事業を開始した後に、建設・改良等の目的に充てるため、他の会計（市の一般会計等）からもらった財産の額に相当するもの。
組入資本金とは、企業債の償還や建設・改良等の目的に充てるため使用した積立金相当額を、条令または議会の議決を経て、資本金に組み入れたもの。

資本的収支・・・・・・収益や費用には関係ない、資本や負債に関わるお金の流れ。例えば、資産となりうる施設（建物など）の整備や、企業債の元金償還などが、資本的収支に含まれる。
資本的収支は、公益企業会計では、４条（収支）と呼ばれている。

収益的収支・・・・・・経営活動に伴って発生する全ての収益と費用を表す。
水道事業でいうと、水道料金や維持管理費などがこれに含まれる。
収益的収支は、公益企業会計では、３条（収支）と呼ばれている。

剰余金・・・・・・・・剰余金は、資本剰余金と利益剰余金の２種類に整理することができる。
資本剰余金とは、資本金に属するもの以外の資本取引によって生じた余剰によるもの。例えば、土地等の償却資産以外の固定資産の取得または改良に充てるための財産価値に相当するもの。
利益剰余金とは、水道事業運営によって獲得してきた利益等によるもの。条令または議会の議決を経て、目的の決まった積立金と目的の決まっていない「未処分利益剰余金」に区分される。

損益計算書・・・・・・ある一定期間における企業の経営成績を表示する報告書のこと。（P28参照）

た

貸借対照表・・・・・・年度末時点における企業の財政状況を表示する報告書のこと。(P29 参照)

長期前受金戻入・・・・財源を年数ごとに少しずつ収益にしていく仕組みのこと。
施設等を整備するときには、その費用の一部を、国などから補助金、負担金としてもらったり、それを使用する方など関係者に負担していただいたりしている。
これらは施設を整備する年にまとめてもらうが、損益計算書には“1年間にかかった費用と収益を載せる“という決まりがあるため、減価償却費と同様に、その施設が使える年数に合わせて、それぞれの年に収益を分ける必要がある。

は

引当金・・・・・・・・・将来発生する費用や損失に備えるために、あらかじめ準備しておくもの。
貸倒引当金や賞与引当金など、様々な勘定科目がある。

負債・・・・・・・・・・企業債や未払金等の借金のようなもの。
返さなければならない期限が１年未満か１年以上かによって、流動負債と固定負債に分けられる。

負担金(収入)・・・・・例えば兵庫県や明石市下水道事業などの事業者から水道管工事の依頼を受けた際、事業者に当該工事費用の負担を求めるもの。

補てん財源・・・・・・今までに生じた利益や、費用化されるが当年度現金を支払う必要がない減価償却費などが「補てん財源」として管理される。
資本的収入よりも資本的支出の方が大きい場合は、この補てん財源で補てんしなければならない。
その理由は、資金的な裏付け（現金・預金残高のこと）があることを確認し、企業がその事業規模を逸脱して拡大・拡張していないかを確認するためである。

ら

流動資産・・・・・・・・１年以内など、比較的短い期間で現金にすることができる資産のこと。
現金や預金、未収金などがある。

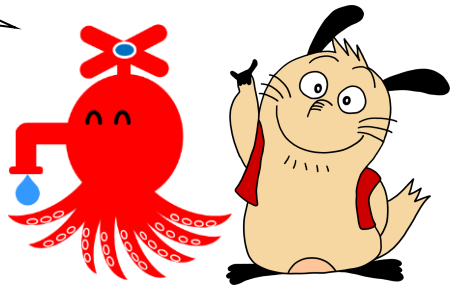
流動負債・・・・・・・・企業の本業に関わって生じた支払債務や、１年以内に支払わなければ
ならない債務のこと。

（以上となります。）

明石市水道事業の財務情報の掲載先

以下のホームページに掲載されています。
https://www.city.akashi.lg.jp/suidou/s_keiei_ka/kessannyosan.html

過去の決算情報や予算情報なども併せて掲載されているから
ぜひ見てみてね。



2026年(令和8年)10月
明石市上下水道局 経営管理室 水道経営課 水道財務係

〒673－8686 明石市中崎1丁目5番1号
TEL；078－918－5064(直通)
FAX；078－911－4066
Mail；meisuikei@city.akashi.lg.jp